

# 文化財調査報告書



前橋市教育委員会

平成9年度

第28集

# 文化財調査報告書



平成 9 年度

前橋市教育委員会

第 28 集

# 序

前橋市は文化財のたいへん豊かな町で、国・県の指定（認定）した文化財が61件、また、本市が文化財に指定したものは108件にのぼり、いずれも県下で最も多い数となっています。

内容を見ますと天然記念物（樹木等）4件、原始時代（縄文時代）1件、古代（古墳～平安時代）34件、中世（鎌倉～戦国時代）53件、近世（安土桃山時代～江戸時代）57件、近代（明治～戦前）4件、民俗（郷土芸能・民俗行事など）16件と、まことにバラエティーに富んでおり、前橋の恵まれた自然と豊かな歴史・文化を強く感じさせます。

衣食足りた現在、住環境をめぐる話題がひときわ大きく唱えられています。そこでは自然環境とともに歴史的文化的環境も大きく取り上げられていますが、それをふだんの生活にどう生かし、またどのように未来に伝えるかが大きな課題となっています。

前橋市教育委員会では、このような課題に対し、指定文化財をおり込み、その地域の文化財に触れ親しんでいただくために総社・元総社地区の歴史散歩道整備事業を進めてまいりました。

また、前橋東部の大室公園の整備とともに進められている大室古墳群の史跡整備や民家の公開、今後、建設が計画されている資料館などによって、赤城南麓の歴史や文化に触れるができるようになるでしょう。なお、この地域では、城南地区の歴史散歩道整備事業の一環として、国指定史跡女塙や県指定史跡荒砥富士山古墳の買い上げも進めております。

本書を通して、文化財の保護とともに歴史的文化的環境を形成する本市の文化財保護行政の一端をご理解いただければ幸いです。

また、平成9年度の事業を進めるに当たりご指導ご協力をいただいた関係各位、並びに諸機関に感謝申し上げます。

平成10年9月

前橋市教育委員会

教育長 早 部 賢一郎

# 目 次

## 序

I	文化財調査委員による調査.....	1
	乗明院文化財調査.....	1
	善光寺文化財調査.....	2
II	文化財調査.....	3
	光巣寺所蔵灌頂用具調査（第1年次）.....	3
III	新指定文化財紹介.....	6
	石造観音菩薩坐像.....	6
	西大室町公民館のオハツキイチヨウ.....	7
IV	文化財保護事業.....	8
1	保護管理運営事業.....	8
2	整備事業.....	9
3	普及事業.....	10
4	埋蔵文化財発掘調査事業.....	13
5	大室公園史跡整備事業.....	26

あとがき

# I 文化財調査委員による調査

平成9年度の文化財調査は、平成9年10月6日に市内公田町の乗明院、同7日に市内鶴小路町の善光寺を行った。両寺院では、本尊をはじめとする仏像、境内の石造物を中心に調査を行った。このほか、乗明院では楼門の棟札、また善光寺では御朱印状や当麻曼荼羅を調査した。調査の概要は下記のとおりである。

## ●乗明院文化財調査

### 乗明院調査仏像目録

カード番号	種別(名称)	材質	法量 cm	備考
1	阿弥陀立像(本尊)	木造	像高97	中品中生。頭部は近世、肩から下は南北朝時代。
2	阿弥陀立像	木造	像高44	上品上生。光背なし。地方人(素人)の作。室町時代か。
3	薬師如来坐像	木造	像高24	寄せ木造。寛永頃の作。
4	閻魔大王像	木造	像高23	幕末の作。

### 乗明院調査石造物一覧表

カード番号	種別(名称)	法量 cm	備考
1	阿弥陀三尊像板碑	総高167 幅35	阿弥陀如来(蓮下座とも)35cm 般若菩薩・勢至菩薩(蓮下座とも)いづれも22cm 弘安3年 市指定重要文化財(昭48)
2	麻覚動寺宝塔	総高219	永和4年 市指定重要文化財(昭39)
3	石殿	総高128	空風輪一石で後補。内部に石造虚空蔵菩薩、全長28cm、室町時代。
4	常夜燈	総高170	一対、文化5年
5	宝塔	塔身高20、同径29	塔身のみ。室町中期
6	石造鬼瓦	高37、幅37	近世

以上のほか、いずれも中世の五輪塔で、空風輪11、火輪26、水輪7、地輪6が墓地や境内に認められた。

### その他の調査

カード番号	種別(名称)	法量 cm	備考
1	棟札	長85、下端幅16.5	(表)鐘塔門造立棟札 明和九年 (裏)鐘塔門屋根替棟札 明治十九年 ＊銘文は表外に記す。
2	棟札	長76、幅17.5	昭和十年二月十日 前橋大工 五十嵐寅造 上屋根取替瓦葺 久 父 鶴小路 小工 北川勇 請負吉沢義内 小工 深津輝吉

\*棟札銘文

(表)

多聞天王 聖主天中天 遂陵頻伽聲 大行事文殊大士 地國天 明和九壬申歲 脇樋契 小川權藏宗房

(梵字)奉造立鐘塔門並巨鐘一基大願主三十二世法印惠譽紀伊殿御棟梁門弟新井村浅見出羽光命

富地村

廣目天 哀愍衆生者 我等今敬礼 小行事普賢大士 增長天 四月吉祥日 小工 斎田幸七清安

(裏) 明治十九年 大世話人 町原辰次

石原 濱吉

(梵字)奉造新鐘塔門總屋根替當山四十一世法印暢堅並當村世話人連名記

町原丈五郎

二月二十日 屋根師棟梁町田甚造

同 兼吉

高岸 口口

●善光寺文化財調査

善光寺調査仏像目録

カト番号	種別(名称)	材質	法量 cm	備考
1	阿弥陀如来坐像(本尊)	木造	像高一	総高。定印。江戸元禄時代。
2	善光寺三尊仏	木造	総高76.5 (台座とも)	総高。阿弥陀如来像高35cm、觀音菩薩像高26cm、勢至菩薩像高25.5cm。南北朝～室町時代。

善光寺調査石造物一覧表

カト番号	種別(名称)	法量 cm	備考
1	宝篋印陀羅尼塔	総高180	「天文4年」(北面)、「雲上山善光寺三十二世聖者法印 智貴(東面)蓮台・仏像安置部。笠の各部は他から寄せたもの。
2	六地蔵石幢	総高170	轂部正面に阿弥陀三尊、残り三面に二体ずつ六地蔵。轂部と基礎は室町時代明応期ごろ。
3	五輪塔	総高153	空・風・水・火・地輪ともすべて角閃石安山岩で、別石。14世紀前半(鎌倉末～南北朝初頭)
4	五輪塔	総高137	空・風輪は一石、安山岩。火・水・地輪は角閃石安山岩。14世紀後半。
5	板碑	残存長36.5、幅17.5、厚3	上半部残片。緑泥変岩。15世紀初頭。
6	板碑	残存長33.5、幅24.5、厚2	下端残片。緑泥変岩。14世紀末。
7	板碑	残存長47、幅27、厚2	下端残片。緑泥変岩。蓮台・花瓶刻画。14世紀末。
8	板碑	全長81.5、幅26、厚2.5	ほぼ完存。14世紀末。
9	板碑	全長104、幅29.5、厚2.5	完存。阿弥陀三尊種字。元応3年2月14日。
10	板碑	全長93.5、幅28、厚2.5	完存。阿弥陀三尊種字。文和2年3月。
11	板碑	残存長46、幅30、厚3.5	上部残片。阿弥陀來迎図、踏み割り蓮座、花瓶の図。14世紀前葉。

善光寺什宝物の調査

カト番号	種別(名称)	法量 cm	備考
1	御朱印状	8通	五代嗣吉 八代吉宗 九代家重 十代家治 十一代家齊 十二代家慶 十三代家定 十四代家茂
2	御朱印高書上帳	一冊	慶応四年八月
3	当麻曼荼羅	縦109 横98	絹本。南北朝。 絹書「當麻曼荼羅一幀 善光寺二十二世蓮國智實代 納入」

## II 文化財調査

本年度から2年計画で実施する光巣寺所蔵灌頂用具調査の第1年次として、平成10年3月16・17日に光巣寺で実施した。調査は、東京国立博物館金工室長原田一敏氏によって進められた。

この灌頂用具は密教寺院において僧侶の儀式に使う江戸時代の仏具で、大正15年に山形県立石寺に貸し出していたものが最近返却されたのに伴い調査を実施したものである。保存状態が良く、しかも一式残されている点で貴重である。

今回の調査では、灌頂用具のうち金工品などを中心とし、独鈷鉢・宝珠鉢・三鈷鉢・宝珠杵・五鈷杵・輪宝・羯磨・金鉢・明鏡・道具箱・宝冠・燈台皿・花瓶・門標・三鉢・覆面について調査した。灌頂儀式に使う衣装や敷物、曼荼羅等の他の諸道具については、次年度の調査を予定している。

### ●光巣寺所蔵灌頂用具調査

#### 独鈷鉢 1口

高15.6 口径8.2 口厚1.0

銅製鍍金。鉢身と鉢部は別飾。鉢身は裾で大きく張り出して、上から一条、子持三条、二条、子持三条の紐帯を巡らし、肩に間弁付き八葉重井の蓮弁帯を飾り、蕊は肩の裾に至る。頂に鉢部を押し入れための立ち上がりを設ける。舌は欠失。

鉢部は、把の中央に輪郭に線形を加えた円形鬼目を4個配し、その上下に八葉重井の蓮弁を二条の紐帯で約す。独鈷鉢は先で膨らみが強くなり、基部に節を一節作り出す。

#### 宝珠鉢 1口

高16.6 口径8.2 口厚0.85

銅製鍍金。鉢身と宝珠部は別飾。鉢身は独鈷鉢と同じ作行で裾で大きく張り出して、上から一条、子持三条、二条、子持三条の紐帯を巡らし、肩に間弁付き八葉重井の蓮弁帯を飾るが、各弁は独鈷鉢のものより幅広で先が丸みを帯びる。頂に鉢部を押し入れための立ち上がりを設ける。

鉢部の把も独鈷鉢と同様であり、上に共造りの四方火炎付きの宝珠を配す。

#### 三鈷鉢 1口

鉢身=高7.6 口径7.0 口厚0.6

杵部=長16.5

三鈷鉢の形成をなしているが、鉢身と鉢部は別物であり、しかも鉢は五鈷杵を改造したもので、片側の鉢は中鉢のみを押し込み用に残し、脇鉢はすべて切り落としている。またもう片側も脇鉢を二本切り落とし、三鈷としている。

鉢身は銅製鍍金。独鈷鉢・宝珠鉢と紐帯・蓮弁節などの形態は全く同じである。

五鈷杵は銅製鍍金。把の中央に周を二重に鋤出した円形鬼目を4個配し、その上下に八葉三重井の蓮弁を蓮珠文帯で約す。独鈷は先へと尖がり、中鉢は基部に節を一節作り出し、脇鉢は嘴形を作り出す。

光巣寺に伝わる金剛鉢は三口が鉢身の形態が同様であり、おそらく五口を一具とした五種鉢として存在してい

たものであろう。五種鉢は独・三鈷・五鈷・宝珠・塔の各鉢を一具としたものをいい、密教の修法壇には、東に五鈷鉢・南に宝珠鉢・西に独鈷鉢・北に三鈷鉢・中央に塔鉢を配するのが通例である。

光巣寺に伝わる灌頂私記などの文書類には寛文、延享、享保などの歴書が記され、江戸時代を通じて灌頂用具が整えられたとみられるが、これらの金剛鉢も江戸時代前期から中期にかけて製作されたと考えられる。

#### 宝珠杵 1柄

長18.3

銅製鍍金。把は中央に横長の円形鬼目を三段に作り出し、その上下に間弁付八葉三重井の蓮弁帯を二本の紐で約す。左右の蓮弁先に円形の座を設け、その上に4個からなる宝珠を共造りとし、三方火焰を座にからくり留めする。

金剛杵には宝珠杵があるところからも、本来五種杵をなしていたとみられる。現在光巣寺には、この宝珠杵と三鈷杵・五鈷杵の三種があるが、宝珠杵だけが江戸時代の作と考えられ、三鈷杵・五鈷杵は現代の作である。

#### 三鈷杵 1柄

長14.9

銅製鍍金。

現代の作。

#### 五鈷杵 1柄

長14.8

銅製鍍金。

現代の作。

#### 輪宝 1個

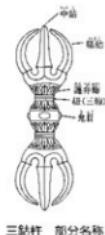
径13.7

銅製鍍金。八角輪宝。穀（こく）は中心に盛り上がり強い円を作り、その周りに八葉三重井間弁付の蓮弁を線刻する。輻（ふく）は独鈷杵形で中央に2カ所節を作つて二分し、基部に蓮弁を表わす。軸（もう）は重圓式、基部に三重圓、中央で半円状に膨らんだ帯を巡らし、刃へと至り、各稜に刻みを入れる。

#### 輪宝 1個

径=軸（もう）先の径9.2

鋒先の径10.7



三鈷杵 部分名称

銅鑄製鍍金。八鉢輪宝。轂（こく）は中心に盛り上がりの強い円を作り、その周りに八葉三重弁間付の蓮弁を線刻する。幅（ふく）は独鉢形で素文。輞（もう）は重巻式、子持三条様に膨らんだ帯を巡らす。

光嚴寺には、八角輪宝と八鉢輪宝との二種がある。轂（こく）の蓮弁が同趣であり、製作はともに金剛鉢と同じく、江戸時代前期から中期であろう。

輪宝 1個

径=轂（もう）先の径10.8

鋒先の径12.2

銅鑄製鍍金。八鉢輪宝。

現代の作

羯磨 4個

径11.8

銅鑄製鍍金。中心部の轂は盛り上がりの強い円を作り、その周りに八葉三重弁間付の蓮弁を線刻する。鉢部は基に三重弁間付の蓮弁を薄肉圓錐で表わし、鉢は鋭さは欠き、鉢先は接着する。

轂の蓮弁が輪宝と同様であり、製作は江戸時代前期から中期であろう。

金鉢 2柄

長①=16.8 ②=17.0

銅鑄製鍍金。両珠金鉢、三鬼目式。線刻を加えて三段盛とした横長鬼目を三列に配して、その間を斜線文を線刻し、左右に三重弁間付の蓮弁を八角二条の紐で約す。

2柄とも同様の作行きであり、金剛鉢や輪宝、羯磨と同期に整えられたものであろう。

金鉢 1柄

長=16.3

木製赤、黒塗。両珠金鉢。鬼目はなく、3節に蓮弁を彫り、その刻線の溝を黒く塗る。両先端に宝珠とその受台を作る。

木製の金鉢は灌頂儀式用であり、これも金属製のものと同時に製作されたものであろう。

明鏡 1面

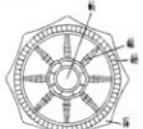
縦12.0 鏡部径7.3

銅鑄製鍍金、鏡部のみ鍍錫。表は中央に内鏡をつくり、縁から一段窪ませて火炎を出す。裏は鏡部が凸出し、中央に孔をあけた納を作り出す。

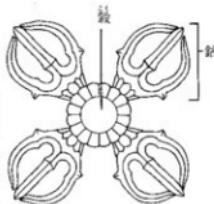
明鏡は灌頂儀式において受者に「一切法の相即無相なること鏡中の像の如し」と悟らしめるために示すものである。これも江戸時代初期から中期にかけての作であろう。

道具箱 1口

縦36.45 横36.5



輪宝(八角 蓮華式)部分名称



羯磨 部分名称

木製、正方形の浅い箱。側面下方に花弁様を3単位づつ透彫する。

底板表に、中央に明鏡、東に金鉢、西に払子と法螺、南に輪宝、北に三鉢杵を朱で描き、「西」と「南」の文字を白（たぶん胡粉）で書く。

裏は中央に明鏡、東に法螺、西に金鉢と払子、南に輪宝、北に三鉢杵を朱で描く。

宝冠 10頭

高19.5~20.4 各面の幅13.8~14.0

紙製、彩色。地を白色に雲母を入れ、縁、桟に銀箔を押したものと、地を赤にし、縁、桟に銀箔を押したものとが各5頭づつある。

燈台皿 50枚

縦8.3~8.8 橫8.7~9.0 厚0.65~0.7

十方神供用燈台皿。杉板製、隅切り方形。

花瓶 3口

①=高22.35 口径6.3 台径12.2

高22.2 口径6.4 台径12.2

②=高19.2 口径7.65 台径9.9

銅鑄製鍍金。①は胴が菱形となる他は頭、台脚など通常の垂字形を呈し、台に比ヘ口が小さい。頭に二条、脚に三条の紐を巡らしている。

②は典型的な垂字形で、口と台の大きさも差がない。頭に二条、胴に子持三条、脚に二条の紐を巡らす。脚に「立石寺」の縦刻がある。

花瓶は修法壇上の四隅に配され、これに中央に大きめのものを加えることがあるが、光嚴寺に残るものは3口で、しかも内1口は「立石寺」の銘文があり、大正15年以來山形県立石寺に貸出していた灌頂用具類一括が平成2年返却された際混入したものとみられる。製作時期は房が菱形をした2口は鉢、羯磨、輪宝などと同様、江戸時代初期から中期にかけて整えられたものであろう。

門標 4基

高21.5~22.0 台縦幅8.7~8.8 台横幅14.6~14.7

杉板製。台、框、台を重ね、その上に標札をのせる。各標札には表裏金胎の菩薩名を墨書きする。

## [墨書]

①

金	
東	北
能	大
滿	悲
願	者
名	菩
使	薩
者	剛

胎	
西	南
滿	念
願	持
奉	菩
教	薩
者	剛

④

金	
北	東
無	發
染	生
着	念
便	菩
者	薩

胎	
南	西
悲	被
脫	雜
奉	色
教	衣
者	執

②

金	
北	東
勝	利
解	益
脫	衆
使	生
者	菩
薩	剛

胎	
南	西
著	總
雜	持
色	自
衣	在
奉	菩
教	薩

三鉢 4枚

高37.5 幅25.7

木製。表は三鉢の筋や節、蓮弁、蕊などを彫り出して、金箔を押し、裏は平滑で弁柄を塗る。底部から左右に二股状の突起を出し、その中に竹ひごを押し込んでいる。

覆面 13枚

大=縦16.9 横126.4

小=縦6.9 横95.8

木綿、麻製。白7枚、赤6枚。横長の鉢巻状の帯、大小あり。

③

金	
北	東
修	陀
特	羅
勝	尼
行	自
使	在
者	菩
薩	剛

胎	
南	西
無	利
礙	益
奉	菩
教	薩
者	剛

(調査者 東京国立博物館 金工室長 原田一敏)

### III 新指定文化財紹介

#### 1. 石造觀音菩薩坐像



・区分 重要文化財

・記号番号 重第74号

・指定年月日 平成10年4月10日

・所在地 前橋市田口町309-2

・所有者 他3名

・管理者

・概要

この石仏は、安山岩製の觀音菩薩坐像で、觀音山古墳の円墳壇頂に安置される。二重の蓮華座の上に半肉彫りの坐像を乗せ、背に舟形の光背を負っている。蓮華座の上段の蓮瓣（蓮の花びら）は線刻である。蓮華座、坐像、光背とも一石のつくりである。

銘文は、像の右脇に「應永二十年」、左脇に「卯月十七日」と彫られ、西暦1413年に作られたことがわかる。また、光背には、像の上部に觀音「サ」、左側に觀音「サ」と金剛界釈迦如來「オン」、右側に阿彌陀如來「キリーグ」と阿閻如來「ウーン」の種子（仏教で仏を表す梵字）五体を薬研彫（断面がV字形の彫り）で刻す。

像は通肩（両肩を覆うように2枚の布を使った仏の衣装）の厚肉彫りで、肩の張りが強い。宝冠を乗せた頭部

は猪首状に首をすくめに形に表現している。左手には蓮華を持ち、右手は施無畏印（畏怖の気持ちを無くさせる仏の手の形）とする。衣は結跏趺坐（坐禅のときの足の組み方）した両膝の間に、前下がりに表現されている。

この石仏は、鼻や目的一部を欠損するものの全体に保存がよく、年号もあることから石仏研究の基準になるものである。また、本件の觀音菩薩は、阿弥陀や地藏が来世を託す仏に対し、薬師とともに乱世における現世利益を求める民衆信仰のようすを知る上でも貴重である。

〔法量cm〕 総高48.0 総幅42.5 像高30.0 像幅25.5

## 2. 西大室町公民館のオハツキイチョウ



- ・区分 天然記念物
- ・記号番号 天第3号
- ・指定年月日 平成10年4月10日
- ・所在地 前橋市西大室町1684番地
- ・所有者 西大室町自治会
- ・管理者 西大室町自治会
- ・概要

このイチョウは、西大室町の大室城跡に所在する西大室町公民館のすぐ東に隣接して生育する、樹高25m、幹の周囲目通り2.2mの雌株である。

オハツキは「御葉付」で、ギンナンがイチョウの葉の縁辺につく奇態をしめすものである。これは、現在では一般に見られない本来の形質が偶然に出現する、遺伝子の「先祖帰り」の現象である。このことはイチョウの花器が葉から変形したものであり、また、大昔のイチョウの大部分がオハツキだったことを物語っている。

本件のオハツキは木全体ではなく、一部の枝に出現しているもので、またそれがオハツキイチョウの特色ともなっている。ギンナンは葉の前縁部につき、双方で栄養分を取り合うため小ぶりである。

本県では、他にこの種のイチョウは発見されておらず、また関東地方でも国指定天然記念物の水戸市のイチョウに次いで2例目であり、大昔のイチョウの形質を今に残

す貴重な植物である。

## IV 文化財保護事業

### 1. 保護管理運営事業

本市に存在する豊かな文化財を保護し、活用するためには、平成9年度において、次のような事業を実施いたしました。

#### (1) 国有文化財の管理

国指定史跡の（総社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の田中勝さんと堀口和四郎さんを国有文化財監視人にお願いし、日常管理を実施しました。

また、除草作業や清掃作業等については、地元の総社地区史跡愛存会と前橋市連合青年団の方々の協力を得て実施いたしました。

#### (2) 国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が21件、県指定のものが40件、市指定のものが108件あり合計169件の指定文化財があります。

各文化財には、標柱と説明板を設置し、これらの文化財を訪ねる人々の利便をはかっておりました。

なお、区分については下記のとおりです。

#### ① 指定区別文化財（10. 4. 10現在）

区分 種別	重要文化財	史跡	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	重要美術品	合計	
							件数	割合%
国指定	3	11	1	0	0	6	21	
県指定	34	5	0	0	1	0	40	
市指定	73	17	3	7	8	0	108	
合計	110	33	4	7	9	6	169	

#### ② 時代区別文化財（10. 4. 10現在）

指定別 時代別 (件数)	国指定	県指定	市指定	合計	
				件数	割合%
天 然	1	0	3	4	2.4
原 始	1	0	0	1	0.6
古 代	15	3	16	34	20.1
中 世	2	18	33	53	31.3
近 世	2	15	40	57	33.7
近 代	0	3	1	4	2.4
民 俗	0	1	15	16	9.5
合 計	21	40	108	169	100

#### (3) 史跡の除草・清掃事業

市内各地区に存在する史跡において、市が直接管理すべきものについて、地元自治会やシルバー人材センター、業者に除草・清掃作業を委託し、史跡が美しく保たれるよう作業を実施しました。

実施箇所は、下記の表の通りです。

番号	物 件 名	区 分	所 在	面 積
1	龜塚山古墳	市指定史跡	山王町1-28-3	2,484m <sup>2</sup>
2	金冠塚古墳	市指定史跡	山王町1-13-3	2,407m <sup>2</sup>
3	今井神社古墳	市指定史跡	今井町618	3,000m <sup>2</sup>
4	車 橋 門 跡	市指定史跡	大手町2-5-3	400m <sup>2</sup>
5	酒井家歴代墓地	市指定史跡	紅葉町2-8-15	3,800m <sup>2</sup>
6	天神山古墳	県指定史跡	広瀬町1-27-7	730m <sup>2</sup>
7	八幡山古墳	国指定史跡	朝倉町4-9-3 他	15,081m <sup>2</sup>
8	前二子山古墳	国指定史跡	西大室町 2659 他	11,068m <sup>2</sup>
9	中二子山古墳	国指定史跡	東大室町五科 1501	16,000m <sup>2</sup>
10	後二子山古墳	国指定史跡	西大室町内堀 2516-1 他	12,283m <sup>2</sup>
11	蛇穴山古墳	国指定史跡	鷹狩町 1587-2	1,793m <sup>2</sup>
12	宝塔山古墳	国指定史跡	総社町總社1606	2,204m <sup>2</sup>
13	女 堀	国指定史跡	東大室町・二之 宮町・鷺ノ井町	19,776m <sup>2</sup>
14	不二山古墳	市指定史跡	文京町	562m <sup>2</sup>
15	並盛富士山古墳	県指定史跡	西大室町	1,270m <sup>2</sup>
				計 92,858m <sup>2</sup>

#### (4) 文化財パトロール

市内を6地区に分け、各地区に1名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施しました。

文化財パトロールの結果は、月に1~2回程度文化財保護課に報告していただき、管理していく上で情報をお伝えいただきました。そのため、緊急事態に対処することができました。

各地区的文化財保護指導員は、下記の表の通りです。

地 区	氏 名	住 所	電 話
中 央	福島 守次	天川大島町	
鷹 社・清 里	閑口 浩七	総社町總社	
東・元 總 社	中島 孝雄	石倉町	
上川渕・下川渕	関根 長男	山王町	
南 橋・芳賀 桂 薫	栗原 秀雄	荒牧町	
城 南	森村伊勢雄	富田町	

## (5) 前橋市蚕糸記念館の整備及び管理

この建物は明治45年国立原蚕種製造所の本館として建てられたもので、エンタシス状の玄関の角柱、レンガ積みの基礎、高い天井、大壁造、横箱目地板張など明治時代の代表的洋風建築であり、昭和56年県指定重要文化財になりました。

翌57年蚕糸記念館として一般公開され、ここには養蚕、製糸関係の品々が展示されております。平成9年度の整備では、雨樋の補修等を行いました。7,328人の観覧者でにぎわいました。

## 2. 整備事業

### (1) 歴史散歩道整備事業

平成9年度は、案内・休憩施設としての総社資料館の開館に伴う管理・運営を中心として、雪害による屋根の修理等を実施しました。

城南歴史散歩道計画については、女堀の公有地化と大室跡公園の進捗状況を勘査しながら、引き続き文化財資源などの基礎調査等を進めています。

#### ①総社資料館の整備

今年度は、山王庵寺関係の展示についての整備・充実が図られ、見学者の文化財への興味・関心を喚起し、理解を深めることができますようになりました。特に、新たに展示された山王庵寺塔心礎の複製及び構造説明模型は、すでに複製された根巻石と組み合わされ、見学者が塔の基礎部分の構造を理解しやすくなりました。

平成9年度の総社資料館開館日数は252日、この間に5,800名余りの来館見学者がありました。



総社資料館パンフレット

#### ②「第8回総社秋元歴史まつり」への協力

平成9年度総社秋元歴史祭りは11月8日（土）9日（日）の両日、市内総社地区を会場に開催されました。この催しは、総社元総社歴史散歩道を中心とした史跡・文化財めぐり、バザールと一体化したイベントであり、前橋市教育委員会でも後援しました。

また、これにあわせて両日に総社資料館で、「秋元名宝展」を開催しました。展示品は、秋元と朝氏所蔵の無の字牌・梨地家紋散細太刀、館林教育委員会所蔵の日光山東照宮造営帳・秋元久朝日光社朝縫巻・秋元泰朝書幅など28点で、見学者は約2千人ありました。



蚕糸記念館

### (2) 二子山古墳（総社）修復工事

平成9年度は、平成6年度から10年度までの国指定史跡二子山古墳修復事業の第4年次に当たり、前方部石室周辺と周辺斜面の崩落防止工事と前方部及び括れ部の盛土、植栽工事等を中心に実施しました。

また、最終年次の平成10年度の修復工事に向けて、万全を期すためにも古墳全体を眺めて、土砂流出箇所や小規模な崩落箇所に盛土や芝張りを行いました。



総社二子山古墳修復状況



秋元展のようす

### (3) 文化財標柱・説明板・案内板等設置工事

平成9年度は、次にあげる指定文化財・史跡の標柱・説明板の立て替え・新設を実施しました。昨年度に続き、標柱には御影石、説明板にはステンレス材を使用し、耐久性を高めるよう工夫するとともに、屋内に保管されていたり、民俗芸能など公演日が決まっていたりして、実際に目にすることのできないものや目にしにくいものについては、説明板に写真を挿入するなどして文化財の普及に配慮しました。さらに、すべての説明板に文化財愛護作品コンクールの標語の部で優秀賞以上のものを取り付け、これを通して文化財に愛着を持ってもらうようにしました。

※ 標柱の立て替え・新設 2基

① 市指定重要文化財「大徳寺の多宝塔」

(小相木町 大徳寺)

② 市指定重要有形民俗文化財「上泉の獅子舞」

(上泉町 諏訪神社)

※ 説明板の立て替え・新設 5基

① 市指定重要文化財「大徳寺の多宝塔」

(小相木町 大徳寺)

② 市指定重要有形民俗文化財「上泉の獅子舞」

(上泉町 諏訪神社)

③ 県指定重要文化財「十一面觀世音像」

市指定重要文化財「日輪寺寛永の絵馬」

(日輪寺町 日輪寺)

④ 市指定重要無形文化財「総社神社太々神楽」

(元総社町 総社神社)

⑤ 市指定史跡「経塚古墳」

(東善町)

### (4) 史跡境界杭の設置

平成9年度は、国指定史跡女堀の公有地化に伴い、女堀「富田地区」の史跡境界を復元し、杭を設置しました。

## 3. 普及事業

### (1) 第23回前橋市文化財展

・日 時 平成10年1月15日(木)～1月27日(火)

・会 場 前橋市中央公民館 1階ロビー

・テーマ 「よみがえる白鳳の寺 山王廃寺」

－塑像・瓦・石造美術－

平成9年度の調査で、塑像をはじめとする注目すべき出土物が数多く見つかり、マスクミにも大きくとりあげられたことから、市民の間に山王廃寺に対する関心が高まりました。

そこで今年度の文化財展は、「よみがえる白鳳の寺 山王廃寺」－塑像・瓦・石造美術－をテーマに、最新の出土品である塑像の数々、山王廃寺の出土瓦や同范の瓦そして石製鶴尾(複製品)や根巻石(複製品)など山王廃寺に関わる資料を展示・紹介しました。開催期間中、1,500名以上の人たちが見学に訪れました。



立て替えた標柱



新設した説明板



設置した境界杭(女堀)



文化財展のようす

## (2) 第8回文化財愛護作品コンクール

児童生徒の文化財に対する愛護の気持ちを培うために文化財愛護作品コンクール（標語と絵画）と、その最優秀作品による文化財愛護ポスター作成を交互に隔年実施しています。今年度はコンクールの年として、市内の小中学校の皆さんから440点の応募をいただきました。

どの作品も優れたものでしたが、専門の審査員による慎重な審査の結果、市長賞には次の2名の作品が選ばれました。

〈標語の部〉 書上 葉弓 桂東小4年

「心すまれば 聞こえるよ 昔々の物語」

〈絵画の部〉 寺澤 愛 箱田中3年

なお、市役所12階市民ロビーにて文化財愛護優秀作品展を実施しました。

・期間 平成9年12月3日～12月12日



文化財愛護優秀作品展

## (3) 内堀4号墳現地説明会



・期日 平成9年7月21日（月）

・会場 前橋市西大室町 内堀4号墳

前橋市では、大室に自然と歴史を生かした大室公園の建設を進めています。内堀4号墳は、大室公園内にあり国指定史跡中二子古墳の西側にある円墳です。この円墳を、平成8年度にトレレンチにより、石室の位置、周囲の範囲を確認し、今年度全面調査を行いました。その結果古墳の規模や墳丘・周囲・石室などの様子、馬形・人物埴輪が出土するなど多くの成果を収めました。

この貴重な成果を市民の皆さんに知っていただくために現地説明会を開催いたしました。すぐ西隣にある公開したばかりの赤城型民家旧根関家住宅にも、大室古墳群から出土した埴輪を展示し、併せて民家の見学も約600名の方々にしていただきました。

## (4) 第25回前橋市郷土芸能大会

・日時 平成9年11月8日（土）

午後1時～4時30分

・会場 前橋市民文化会館 小ホール

昭和48年以来、市内に伝わる郷土芸能の保護・育成と、広く市民に公開することで市民文化の向上を図ることを目的に前橋市郷土芸能大会を開催してきました。

本年度は、本大会の25周年（四半世紀）を記念して、「前橋広域市町村圏郷土芸能大会」と銘打ち、富士見村、大胡町、宮城村、粕川村の4町村の共催を受け、前橋市と4町村との9団体に出演していただきました。

当社、例年を大きく上回る800余名の来場者は、3時間余りにおよぶ熱演に大いに沸きました。そして、「多種多様な郷土芸能を観ることができ、とても良かった。」という声が多くて来場者から聞かれました。



○公演および出演団体

- ・横室祇園囃子（同保存会）…勢多郡富士見村横室
- ・大胡神社太々神楽（足輕町太々神楽保存会）…勢多郡大胡町
- ・上泉町の獅子舞（同保存会）…前橋市上泉町
- ・稲荷藤節（泉沢町郷土芸能保存会）…前橋市泉沢町
- ・赤城神社太々神楽（同保存会）…勢多郡宮城村三夜沢
- ・江田のかづぎ地蔵（江田町子供会育成会）…前橋市江田町
- ・住吉町二丁目の紙面囃子（愛宕神社）…前橋市住吉町二丁目
- ・飯玉神社太々神楽（同保存会）…前橋市後閑町
- ・近戸神社獅子舞（同保存会）…勢多郡粕川村月田

## (5) 第16回文化財普及講座

本年度は、群馬県最古の寺院である山王庵寺に焦点をあて、「山王庵寺を考えるー歩く・見る・聞くー」をメインテーマに、群馬の地にも花開いた白鳳期・天平期の文化を浮き彫りにする講座を開催しました。

各回とも講座に馴染みの深い場所を会場とし見学と組み合わせ、受講者にはたいへん好評でした。開催した講座名と講師の先生などは次の通りです。

期日	テーマ	会場	講師
11/22(土)	山王庵寺のあらまし	総社山王公民館 前橋市立城内小学校裏庭	石川克博氏 （前橋市立城内小学校教諭）
11/29(土)	総社古墳群と山王庵寺	総社公民館 （前橋市立城内小学校裏庭）	右島和夫氏 （無形文化財認定 講師）
12/6(土)	山王庵寺と国分寺	上野国分寺跡 ガイダンス施設	松田 猛氏 （文化交流課文化財係担当主事）



#### (6) 文化財めぐりパンフレット作成

これまで市内を6コースに分けた文化財めぐりパンフレットを希望する市民の皆さんのがんばり無償で配布してきました。今年度は、B4判のパンフレットをA3判に改め、「総社・清里」と「城南地区」のパンフレットを作成しました。

パンフレットの判を大きくしたのにともない、文字も大きくなり、より多くの市民の皆様が利用しやすいうようにしました。

#### (7) 史跡・文化財めぐり

本年度も、65団体3,300人以上もの史跡・文化財めぐりの依頼がありました。小学生の社会科見学や老人会・自治会主催の史跡めぐり（天狗岩用水、総社資料館、大室三二子古墳、赤城型民家など）で、前橋のすばらしさを理解していただきました。

#### (8) 各種講座等への講師派遣

地区公民館が主催する「家庭教育学級」などの文化財講座・文化講演会や研究団体及び地域の歴史愛好会の研究会などに講師として依頼され、文化財への理解を深めるなど普及活動に努めました。

#### (9) 文化財防火査察

昭和24年1月26日に、奈良法隆寺の金堂壁画が焼失したことを見つかり毎年実施されている文化財防火データは、今年度で42回目を迎めました。

今年度は、1月22日（木）に次の指定文化財所在地にて防火査察を行いました。

前橋市蚕糸記念館、旧アメリカン・ボード宣教師館、妙安寺、東照宮、臨江閣本館・別館、源英寺、東福寺、市立図書館、孝顕寺、円満寺、旧根家住宅、無量寿寺、二宮赤城神社、産泰神社、上野総社神社、光嚴寺、徳藏寺、大徳寺、日輪寺、善勝寺、小河原武吉氏宅。

また、1月26日（月）には二之宮町慈照院において、市指定重要文化財（慈照院千手觀音坐像）を火災から守る防火演習を行いました。



#### (10) 教材開発事業

学校教育、社会教育で活用されることを目的とした歴史・文化財スライドを2カ年で作成しています。「前橋の郷土芸能」をテーマとして、神楽・獅子舞・紙團・古謡・かたりものなど市内各地に伝わる伝統芸能を、昨年度作成したものと合わせ、合計40コマを1セットとしてスライド化しました。

#### (11) 文化財資料の貸出

文化財資料の貸出は、1年間で22件、総点数141点にも及びました。

主なものは次のとおりです。

貸出資料	貸出先
山王廃寺出土 文字瓦「放光寺」など	国立歴史民俗博物館
上州座 繰 器など	群馬県立歴史博物館
前二子古墳出土 小像の付いた円筒埴輪	板木県立しづづき風土記の丘資料館
天神山古墳出土 二窓二獸鏡など	松山考古古館
前二子古墳出土 須 惠 器など	高崎市立観音塚考古資料館
前二子古墳出土 石見型埴形埴輪など	館林市立資料館

#### (12) 山王廃寺塔心礎の複製及び構造説明模型の作成

国指定史跡山王廃寺塔心礎の複製及び構造説明模型を委託制作しました。すでに作成されている根巻石と塔心礎を組み合わせたことにより、これらがどのように使われていたのかが視覚的に分かるようになりました。

なお、製作された塔心礎と根巻石を組み合わせた構造説明模型は、総社資料館に展示しております。



#### (13) 県指定重要文化財産泰神社保存修理

泰神社は、本殿・幣殿・拝殿・神門の4棟を含む境内全体が、平成6年3月に県指定重要文化財に指定されました。しかし、長年の風雨のため屋根を中心とする傷みがあり、平成7年度から3か年計画で、保存修理工事を行いました。保存修理工事は以下のとおり実施されましたが、平成10年3月で竣工となりました。

平成7年度	本殿・幣殿・拝殿
平成8年度	本殿・幣殿・拝殿・神門・防災工事
平成9年度	神門・防災工事・神楽殿・鳥居

#### (14) 文化財保存団体への助成

市内で文化財保護・保存のために活動している次の文化財保存団体に、本年度も補助金の助成を行いました。

・総社地区史跡愛存会

・荒砥史談会

・前橋市郷土芸能連絡協議会

## 4. 埋蔵文化財発掘調査事業

平成9年度の発掘調査をふりかえって

平成9年度は28カ所の発掘調査が行われた。発掘調査は公共開発に伴うものが23件で、民間開発に伴うものが5件である。公共開発では、公園整備1件、区画整理2件、土地改良1件、道路改良3件、水道施設2件、宅地造成1件、市営住宅1件、下水道建設1件、北関東自動車道関連11件である。調査の総面積は49,505m<sup>2</sup>を測る。

北関東自動車道関連の調査が開始され、調査規模が拡大したこと、民間開発に伴う発掘調査が多かつたことが、特長であり、例年に倍する調査が行われ、その協調・調整・実施には多くの困難を伴った。

内堀遺跡群Xでは、古墳時代の住居跡・古墳（M-4号墳）などが検出された。総社桜ヶ丘III遺跡では平安時代の住居跡が検出された。山王庵寺等遺跡では、金堂・塔心壁・講堂の仏龕を検出し、回廊の一部を確認した。また、多くの瓦片のほか塑像片約百点が出土した。この資料は文化財展で展示された。元総社稻葉遺跡では中世の堀が検出され、下新田中沖遺跡では平安時代の水田が検出された。六供中京安寺遺跡では、古墳と周溝墓、古墳から平安時代の住居跡などが検出され、六供下堂木III遺跡では平安時代住居跡と水田跡が検出された。上佐鳥中原前遺跡では平安時代の水田が、上川淵大屋敷遺跡で

は平安時代の溝と井戸跡が、上川淵鶴巣遺跡では古墳から平安時代の住居跡が検出された。山王宮遺跡では、古墳と古墳時代の住居跡が重複・集中して検出された。領田地田遺跡では領城塹と縄文時代住居跡が小坂子新林遺跡では平安時代の溝が検出された。五代松峯II遺跡では古墳時代の住居跡が、近接する芳賀東部団地遺跡では平安時代の住居跡・墓跡が検出され、鳥取福岡寺遺跡では縄文時代から中世にかけての遺構が検出された。

また、北関東自動車道関連の調査は横手町から新井町にかけて行われ、古墳時代から平安時代の水田が重なって検出され、ほかに住居跡などが検出されている。この発掘調査は10年度以降も本年以上の規模で行われる予定である。

また、本年は25件の確認調査と14件の工事立ち会いが行われた。

さらに、9年度は、内堀遺跡で現地説明会が行われ、多数の市民が訪れた。M-4号墳から出土した埴輪群は各方面から注目をあびた。

遺跡台帳整備事業では、台帳整備の他に荒牧小学校と下川淵小学校での展示室設置に協力を行った。



山王庵寺跡出土塑像

### 平成9年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

番 号	通 路 コ ー ド	遺 墓 名	所 在 地	調 査 面 積 m <sup>2</sup>	調 査 年 月 日	調 査 原 因
1	9 A-80	山王庵寺跡（さんわうあんじのうちとく）	緑町街社40番地先	3,260	下水道工事	平成9. 8. 20-10. 2, 14
2	9 E-11	内堀遺跡Ⅳ（うちぼりいせきよん）	西川町街50番地	3,881	公園整備	平成9. 5. 21-9. 12, 15
3	9 A-78	解体移築Ⅲ（そくたいいせきよさん）	緑町街42番地1-3	48	宅地開発	平成9. 9. 23
4	9 H-25	解体移築Ⅳ（そくたいいせきよさん）	北野町街10番地小学校駐車場	80	学校建替	平成9. 8. 1-9. 8, 4
5	9 H-26	六供中京安寺（ろくくうちぎやくさん）	六供町街50番地	6,800	区域整理	平成9. 5. 29-3. 10, 17
6	9 H-27	六供下堂木III（ろくくうちどうもくさん）	六供町街40番地3ほか	1,160	区域整理	平成9. 11. 6-9. 12, 22
7	9 G-17	上佐鳥中原前（じょうさとりちゆうげん）	上佐鳥町街73-1ほか	2,661	特許高麗窯老人ホーム	平成9. 4. 23-9. 5, 23
8	9 C-11	農業東原（のうぎょうとうはら）	農業地内	623	宅地造成	平成9. 7. 14-9. 8, 28
9	9 C-16	農地田（のみねじた）	種田640ほか	264	道路建設	平成9. 9. 1-9. 10, 31
10	9 C-18	小字子新林（こざいしんばやし）	小字子町街278-1	120	道路建設	平成9. 10. 20-9. 11, 20
11	9 G-23	上川町大屋原（じょうかわまちおほやはら）	広瀬町街2-1ほか	118	町水槽建設	平成10. 1. 7-10. 1, 4
12	9 A-82	下新田中沖（ししんたなかみうき）	下新田町街285-2ほか	887	宅地開発	平成10. 2. 5-10. 3, 6
13	9 C-17	農業東原（のうぎょうとうはら）	農業町街613-1ほか	690	道路建設	平成9. 7. 10-9. 7, 31
14	9 A-17	農業東原（のうぎょうとうはら）	農業町街500ほか	3,500	土砂改良	平成9. 10. 3-9. 12, 25
15	9 G-17	上佐鳥中原（じょうさとりちゆうげん）	上佐鳥町街132-1ほか	966	特許高麗窯建設	平成9. 1. 9-9. 9, 30
16	9 C-14	五代松峯II（ごだいしょうほう）	五代町街1301-3ほか	300	地盤改良	平成9. 1. 1-9. 11, 30
17	9 H-32	丸山（まるやま）	又の町街丁1ほか	144	区域整理	平成10. 3. 2-10. 4
18-1	9 G-19	橋下溝田川（よこてすゑだる）	電気街95-1ほか	1,692	北側交通路建設	平成10. 2. 2-10. 3, 20
18-2	9 G-26	橋下溝田川（よこてすゑだる）	電気街95-1-2ほか	1,517	北側交通路建設	平成9. 12. 1-10. 2, 6
18-3	9 G-10	西川II（にしづか）	緑町街255-1ほか	1,195	北側交通路建設	平成10. 2. 22-10. 3, 20
18-4	9 G-22	西川西口司（にしづかせいこうし）	西川町街1,151-3ほか	1,704	北側交通路建設	平成9. 12. 1-10. 2, 6
18-5	9 G-21	健軍仲田（けんぐんなかだ）	健軍町街107-1-2ほか	2,900	北側交通路建設	平成9. 12. 10-12. 3, 20
18-6	9 F-4	下新田鍛錬窯III（しもすにたたんれんようさん）	下新田町街1,653-3ほか	3,398	北側交通路建設	平成9. 12. 1-10. 3, 20
18-7	9 E-36-41	新田大屋原（しんでんおほやはら）	二ノ谷町街165-11ほか	1,797	北側交通路建設	平成9. 11. 18-10. 1, 29
18-8	9 E-37	新田大屋原（しんでんおほやはら）	新田町街157ほか	814	北側交通路建設	平成9. 12. 8-10. 1, 20
21	9 G-24	日高鶴巣（ひだかつるのす）	光明町街3-6ほか	8,566	市管住宅建設	平成10. 2. 2-10. 2, 12

## 平成9年度試掘調査一覧表

市内遺跡

番 号	地 場	面 積	調査面積	調 査 原 因	調 査 年 月 日	調 査 施 計
1	田中町地内	57,000	土工施設事業	9. 5. 12-13	調査未実施	(保存協議中)
2	元新社町字前田6975	828	事務所建設	9. 5. 20	調査未実施	
3	大字町147- 1 他	597	教育施設	9. 5. 20	調査未実施	
4	石井町136- 1	6,681.54	寺修復工事	9. 6. 3	調査未実施	
5	貴志原町	5,000	地場施設	9. 6. 2	調査未実施	
6	貴志原町	15,600	ふるさと館 遺産連携	9. 6. 15	調査未実施	
7	小字町288- 40	12,600	愛媛県立歴史博物館	9. 6. 25	調査未実施	
8	新田町6975- 10378	10,181.3	愛媛県立歴史博物館	9. 6. 25	調査未実施	
9	天山町1310- 1 他	3,753.76	駅伝マラソン会場	9. 7. 10	半官半民の仕事場を抽出	(駅伝路3・三重道調査)
10	天山町1330	4,748	老い香港物語建築	9. 7. 25	古墳の埋蔵地點	(天山町道調査)
11	六郷町395- 3 他	2,418.51	事務所建設	9. 7. 25	建物全体に伴う調査実施	
12	貴志原町2725	2,127	宅地造成	9. 8. 1	調査未実施	
13	能登原町字馬鹿寺町245- 5	862	アパート建設	9. 8. 1	調査未実施	
14	新田町6975- 24085	3,753.76	ふるさと館 遺産連携	9. 8. 27	遺産連携抽出	
15	内山町1- 322- 1 他	1,889.66	ドームブリーゼ	9. 8. 27	遺産連携抽出	(内山町道調査)
16	内山町6975	1,693	農業加工工場建設	9. 10. 30	遺産連携抽出	(内山町道調査)
17	江川町字下り柳179- 1 他	3,900	空地造成	9. 11. 11	平安時代の古墳群を抽出	(大友町道調査)
18	大字町1- 1512- 19	3,771	老人福祉センター	9. 11. 25	遺構未抽出	
19	柳ヶ瀬新田町字前田6975- 1 他	4,206	宅地造成	9. 12. 9	平安時代の古墳群を抽出	(柳ヶ瀬新田町道調査)
20	川浦町1- 1 他	5,618	駅伝マラソン会場	9. 12. 11	半官半民の仕事場を抽出	(川浦町門前調査)
21	西郷町6975	1,000	公園施設	9. 12. 12	古墳時代の古墳群を抽出	(西郷町道調査)
22	大字町1317- 1 他	1,184.32	駅伝マラソン会場	10. 1. 23	旧城跡の古墳群を抽出	(大友町道調査)
23	八幡町6975	1,000	駅伝マラソン会場	10. 1. 24	遺構未抽出	
24	下田町6975	4,983	空地造成	10. 1. 24	半官半民の水辺調査	(下田町道調査)
25	文京町1- 1 他	1,500	古墳整理事業	10. 2. 3, 4	平安時代の古墳群を抽出	(保存協議中)

市内遺跡外

番 号	地 場	面 積	調査面積	調 査 原 因	調 査 年 月 日	調 査 施 計
1	六郷町地内	1,000	古墳整理事業	9. 4. 24	調査未実施	(調査未実施)
2	内山町6975- 1 他	1,000	宅地造成	9. 5. 13	調査未実施	
3	大字町1- 1 他	4,656.04	事務所建設	9. 5. 13	調査未実施	
4	六郷町6975	1,200	古墳整理事業	9. 6. 27, 30	遺構未抽出	
5	六郷町705	1,410	西郷町理容室	9. 8. 18	遺構未抽出	
6	篠原- 小字子町地内	1,400	道場改良事業	9. 9. 19	遺跡地 (小字子新林地)	
7	日比町字中村104- 3	100	道場改良施設	10. 1. 23	遺構未抽出	
8	道場町146番	6,700	道場改良事業	10. 1. 23	遺跡地 (日比町西遺跡)	
9	元新社町字前田6975	2,460.26	道場改良施設	10. 2. 10	遺構未抽出	
10	五代町6975- 2	120	道場改良施設	10. 3. 4	遺構未抽出	
11	鶴見町駅東半田町敷地内	582.26	アパート建設	10. 3. 11	遺構未抽出	

## 平成9年度表面調査一覧表

番 号	地 場	面 積	調査面積	調 査 原 因	調 査 年 月 日	調 査 施 計
1	美和町字坂前486- 2 他	2,389.71	宅地造成	9. 9. 9	遺構未抽出	
2	大字町1- 1 他	1,764	マンション建設	9. 9. 17	遺構未抽出	
3	牧瀬町駅東半田町内	30,000	南伊豆駅駅舎	9. 12. 16	調査未実施	

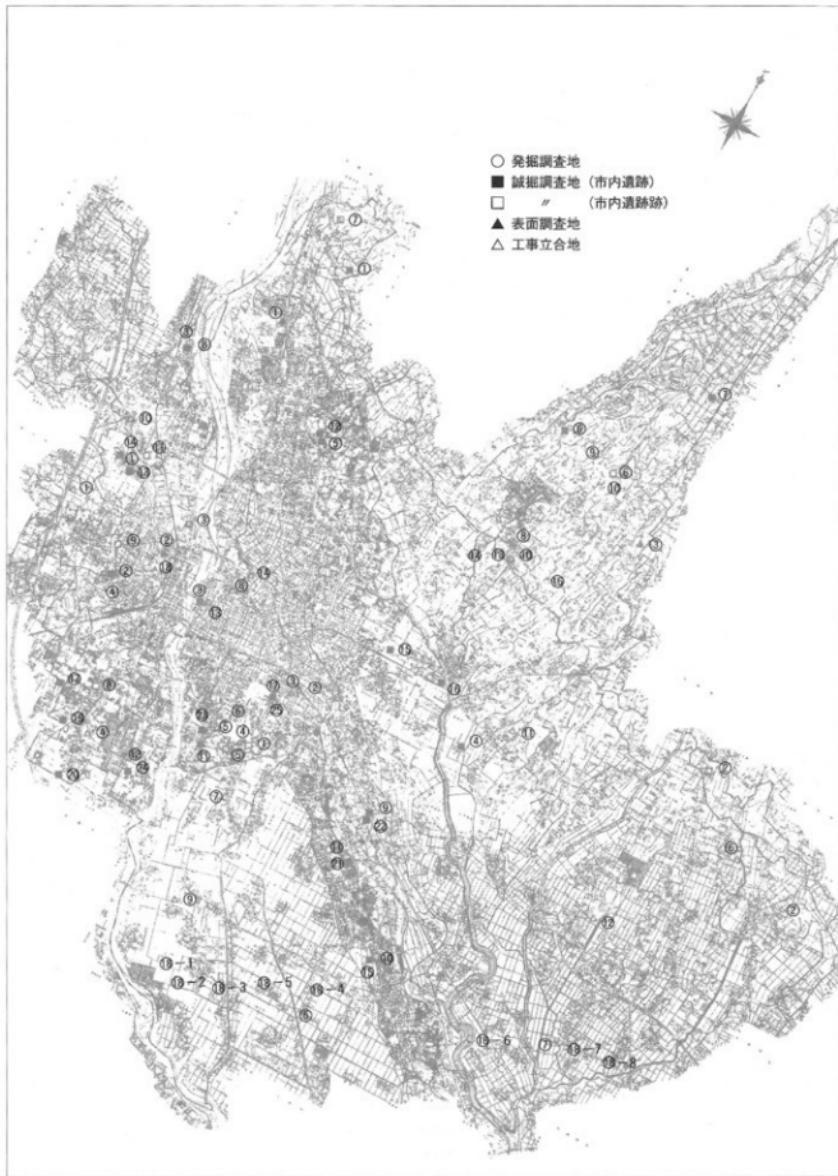
## 平成9年度工事立会調査一覧表

番 号	地 場	面 積	調査面積	調 査 原 因	調 査 年 月 日	調 査 施 計
1	云丹寺町6975	1,000	送電線設置	9. 4. 2-3	遺構未抽出	
2	久慈原- 三丁目149番	1,000	建設	9. 4. 2-3	遺構未抽出	
3	久慈原- 二丁目19- 11	4,656.04	事務所建設	9. 4. 24	遺構未抽出	
4	六郷町6975	1,200	古墳整理事業	9. 6. 27, 30	遺跡地 (六郷町木戸遺跡)	
5	六郷町705	1,410	西郷町理容室	9. 8. 18	遺構未抽出	
6	篠原- 小字子町地内	1,400	道場改良事業	9. 9. 19	遺跡地 (小字子新林地)	
7	日比町字中村104- 3	100	道場改良施設	10. 1. 23	遺構未抽出	
8	道場町146番	6,700	道場改良事業	10. 1. 23	遺跡地 (日比町西遺跡)	
9	元新社町字前田6975	2,460.26	道場改良施設	10. 2. 10	遺構未抽出	
10	五代町6975- 2	120	道場改良施設	10. 3. 4	遺構未抽出	
11	鶴見町駅東半田町内	582.26	アパート建設	10. 3. 11	遺構未抽出	
12	二二堂町地内	6,000	公園整備	9. 11. 27, 28	他の工事地帯、緊急避難施設	
13	大字町147- 1	587.1	教育施設	9. 12. 17	宿泊施設、緊急避難施設	
14	千代田町- 丁目11- 13	160	店舗建設	10. 2. 4	遺構未抽出	

## 平成9年度埋蔵文化財報告書一覧表

番 号	報 告 書 名	調 査 名	発 行 名	発 行 年 月 日	備 考
1	鶴見町駅東	鶴見ヶ瀬丘遺跡	鶴見市教育委員会	平成10. 3. 31	本年度調査
2	内山町6975	下田町中央公園	下田町埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 31	#
3	六供中学校寺 - 大字町6975	六供中学校寺遺跡 - 六供下室堂遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 31	#
4	上佐原- 中原の里	上佐原中原の里遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 27	#
5	山王宮	山王宮遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 25	#
6	五代町6975	五代町墓石遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 31	#
7	方賀垂水の里	方賀垂水の里遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 31	#
8	鳥取原	鳥取原遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 31	#
9	鳥取山遺跡	鳥取山遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 31	#
10	内山町6975-X	内山町遺跡4号墳	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 25	#
11	横手瀬田口	横手瀬田遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 25	#
12	横手瀬田	横手瀬田遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 25	#
13	西田山	西田山遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 25	#
14	西堀川口	西堀川口遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 25	#
15	渡丸田中	渡丸田中遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 25	#
16	平野山越遺跡	下田町越遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 25	#
17	新井原	萩原丘遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 25	#
18	新井大畠・新原	新井大畠・新原遺跡	鶴見市埋蔵文化財発掘調査委員会	平成10. 3. 25	#

## 調査地等位置図



## 1. 山王庵寺等遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 前橋）

事業名 下水道建設工事（水道局）  
所在地 前橋市総社町1224番地ほか  
調査期間 平成9年8月20日～10年2月14日  
担当者 前原 豊・宮内 稔  
調査面積 1400m<sup>2</sup>

調査の経緯 水道局から、山王庵寺が存在する総社町山王地区の下水道施設工事に伴う埋蔵文化財調査依頼書が提出された。工事が山王庵寺の寺域全体に及んでいたため、遺跡保護の観点から数回にわたる協議を行った。しかし、地域に密接した工事で、すでに回避できないことや、掘削幅が狭いため遺構に与える損傷は少ない事や、山王庵寺解説の基礎資料を得られる点で調査を受請した。調査は、重点箇所を発掘調査、それ以外の地点については、すべて立ち会い調査を行った。

立地 前橋市の西端、標高129m前後の桜名山東麓の丘陵性台地に位置する。北東に総社古墳群を配し、南西に上野国分寺跡、尼寺が建立され、さらに南に上野國府が存在するといった、上野国の政治中枢地域に位置する。

調査の成果 トレレンジによる調査は、10本となった。各トレレンジとも原則として20mピッチの測量鉛をアスファルト道路に打ち

込んで調査区を設定した。鉛には平面座標、水準を取り付け、測量に備えた。なお、20mの調査区をさらに2m毎に細分し、セクション観察、遺物の収納、写真撮影、必要に応じた図化作業の基準とした。

今回の調査により、①寺域の推定範囲、②新発見の講堂、回廊の推定範囲を含めた伽藍配置、③瓦溝まりの発見と塑像群の検出等の重要な知見を得ることができた。

寺域については、塔から南北100m地点で築壇跡と推定できる版築を発見してきた。この版築を南限にし、僧坊もしくは食堂の建物跡の北側まで計測すると南北200mとなる。

主要な塔堂は、塔を東、金堂を西、講堂を北に配置する「法起寺式」伽藍配置をとることが判明した。また、礎石群Bが回廊跡となる可能性も生じた。金堂は、さらに東西24m、南北22mまで拡大することが判明し、新たに検出された講堂も東西30m、南北22mの範囲まで確認された。

金堂の西から発見された「瓦溝まり」は径10m、深さ2mの土坑からコンテナ200箱を超す瓦類に交じって、塑像と壁材300点余、金銅仙片、釘、風鈴片、金銅製品、炭化材、土器等の多数の遺物が出土した。

## 2. 内堀遺跡群 X



事業名 大室公園整備事業（公園緑地課）  
所在地 前橋市西大室町2510ほか  
調査期間 平成9年5月21日～12月15日  
担当者 戸所慎策・安立 聰

調査面積 3881m<sup>2</sup>  
調査の経緯 公園整備事業に先立ち、公園予定地内の埋蔵文化財を調査し公園設計の基礎資料と記録保存を目的とし、公園緑地課より依頼があり発掘調査に至った。昭和62年度に始まり、今年度で11年目になる。  
立地 前橋市の東端、赤城山南麓の丘陵地に位置し、北に柏川村、東に赤坂町が隣接する。周辺には大室三子古墳をはじめ、上縄引遺跡、梅木遺跡、赤堀茶臼山古墳などがある。

調査区のうち、管理用道路・内堀4号塹・排水管付設は内堀遺跡、住居跡を検出したのは下縄引II遺跡になる。

旧石器時代 排水管付設箇所で石器1点を検出した。

縄文時代 管理用道路と内堀4号塹周堀底面で土坑各1基を検出した。縄文時代早期末期から前期初頭の遺物を中心に、後期までの遺物をわずかにながら検出した。

弥生・古墳時代 内堀4号塹の全面調査を実施した。6世紀後半に造られ、周堀を含

めると直径約27mの円墳であることが判明した。石室は、後世の石採りのため、壊されていたが、南に開口する横穴式石室である。円筒埴輪、人物埴輪、馬形埴輪は、下段平坦面に、器財埴輪（釦・大刀・鞘・盾）は、墳頂部に設置されていたことが確認された。石室入り口の東側の下段平坦面から、人物埴輪5個と馬形埴輪2個が古墳の造られた当時の位置から検出した。馬形埴輪の前足の埴土側に設置してある人物埴輪は、背中に鎧を貼り付けていた。

弥生・古墳時代初頭の住居跡3軒、古墳時代中期の住居跡3軒、後期の住居跡13軒を検出した。弥生・古墳時代初頭の住居は前年度までの調査と合わせると107軒を数える。古墳時代中期の住居は前年度までの調査と合わせると8軒になる。古墳時代後期の住居は24軒を数える。今年度の調査区は、古墳時代後期の住居の検出数が多い。住居により、竪の位置は、東・西・北壁とさまざまである。13軒の住居は5世紀末から6世紀中葉にかけてのものであるため、前二子古墳や中二子古墳の築造時期と重複をみせる。



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 大胡）

### 3. 総社桜ヶ丘Ⅲ遺跡



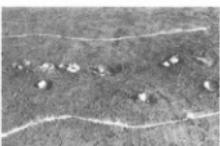
遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 前橋）

### 4. 元総社稻葉Ⅱ遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 前橋）

### 5. 六供中京安寺遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 前橋）

事業名 民間開発（宅地造成）

所在地 前橋市総社町桜ヶ丘1037番地の  
28

調査期間 平成9年7月23日

担当者 古屋秀登・井野誠一

調査面積 48m<sup>2</sup>

調査の経緯 宅地造成工事に伴い株式会社

コイデより確認調査の依頼を受け、平成9

年7月4日に確認調査を行ったところ、平安

時代の住居跡が確認された。事業者と協

議を行った結果、道路建設予定地を対象と

した発掘調査を実施することが決定した。

立地 本遺跡地は前橋市の西北端、JR群

馬総社駅の北方約1.5kmに位置し、利根川

左岸の前橋台地上に存在する。本遺跡の北

側隣接地には、昭和59年に発掘調査を行つた総社桜ヶ丘遺跡があり、その北50mには、昭和62年に発掘調査を行つた総社桜ヶ丘II遺跡が存在する。また、本遺跡の南方には総社二子山古墳や宝塔山古墳などを含む総社古墳群が、さらに南に行くと山王庵寺跡や圓福寺跡が存在している。

縄文時代～古墳時代 なし

奈良・平安時代 調査の結果9世紀後半に

位置づけられる竪穴住居2軒を検出した。

遺物は墨書き文字の入つた完形の須恵器碗が

1点。その他にも完形の須恵器壺1点をは

じめ、

斐等の土器片が十数点出土した。

田跡・中世の溝跡・堀跡が検出されている。

本遺跡では、溝跡が1条検出されたが、遺物は検出されなかつものの、形状からみて元総社稻葉遺跡につらなる中世の溝跡とみられる。

事業名 消防水利整備事業

所在地 前橋市元総社町80-2

調査期間 平成9年8月1日～4日

担当者 駒鹿秀一・井野誠一・坂口好季・

古屋秀登・宮内 賢

調査面積 100m<sup>2</sup>

調査の経緯 平成8年11月25日に、事業課の消防本部警防課より本遺跡地での土木工事の連絡が入る。協議の結果、保存は困難であるとのことと、小規模であるため平成9年度の工事着手時に併せて発掘調査を実施することになった。

調査の状況 調査地は群馬県市町村会館（元総社稻葉遺跡）の西に接しており、同一遺跡である。元総社稻葉遺跡では、縄文時代の土坑、古墳時代溝、平安時代住居跡・中世の土坑・井戸・製鉄炉・道跡・溝・水

事業名 前橋都市計画事業六供土地区画整理事業

所在地 前橋市六供町936-3ほか

調査期間 平成9年5月20日～10年3月31日

担当者 吉田豊二・林 信也

調査面積 6,800m<sup>2</sup>

調査の経緯 平成7年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、本年度で3年目を迎えた。

立地 前橋市街地から南へ約3kmの前橋台地東方、利根川左岸の標高約95～96mのほぼ平坦な土地に立地する。周囲には水田、畑が点在する中、主要な幹線道路が縱横に走り、大規模施設や多くの住宅が立ち並ぶ。

縄文時代 早期～後期にかけての土器片や石造、石斧などが検出された。

古墳時代 古墳時代前期の方形周溝墓2基、竪穴住居跡5軒などを検出。遺物はほとんどが石川式土器であり、住居内から

は炉跡も確認された。年代は4世紀後半と考えられる。他に古墳の一部が検出され、周堤の底部から須恵器蓋杯や土師器杯、提瓶、平瓶などが出土した。年代は7世紀初頭に位置付けられる。

平安時代 住居跡5軒を検出した。うち1軒は貯蔵穴やカマドなどが確認されたが、他の住居は大部分が調査区外にあるため詳細は不明である。これらの住居跡は出土遺物等から9～10世紀と推定される。

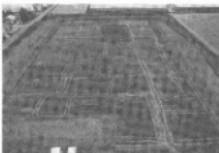
中・近世 琉璃瓦屋敷のものと考えられる溝跡が検出され、土橋の跡と思われる地点から多数の石が出土した。

## 6. 六供下堂木Ⅲ遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 前橋）

## 7. 上佐鳥中原前遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 前橋）

## 8. 芳賀東部団地遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 前橋）

事業名 前橋都市計画事業第六供土地区画

整理事業

所在地 前橋市六供町845-4ほか

調査期間 平成9年10月31日～10年3月31日

担当者 吉田聖二・林 信也

調査面積 1,700m<sup>2</sup>

調査の経緯 平成7年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、本年度で3年目を迎えた。

立地 前橋市街地から南へ約3kmの前橋台地東方、利根川左岸の標高約95～96mのほぼ平坦な土地に立地する。周囲には水田、畑が点在する中、主要な幹線道路が縱横に走り、大規模施設や多くの住宅が立ち並ぶ。

平安時代 道路をはさむ東側から平安時代後期の水田跡18枚を検出した。これらは、

1108年の浅間山噴火に伴い下したテフラ層直下のものである。検出畦畔は14本、大畦畔は確認されなかったが、その走行性や区画性、周辺状況等から条里制水田跡の可能性が考えられる。

一方西側に隣接する調査区は微高地になつておらず、平安時代の住居跡3軒などが検出された。うち1軒はカマドが設けられ、堅鐵な床面が確認された。他の2軒は重複していたが、年代差はほとんどないものと考えられる。出土遺物は土師杯、須恵器、須恵高台壇などで、いずれも10～11世紀にかけてのものであることが判明した。

その他 この他、平安時代の遺物を伴う溝路や土坑などが検出された。

事業名 特別養護老人ホーム建設（民間開発）

所在地 前橋市上佐鳥町地内

調査期間 平成9年4月23日～5月23日

担当者 飯田祐二・佐藤則和

調査面積 2,661m<sup>2</sup>

調査の経緯 平成9年2月、社会福祉法人上川会から特別養護老人ホーム建設に伴つて試掘を行い、平安時代の水田跡が確認がされた。協議・調整の結果、4月に発掘調査の委託契約を締結、発掘調査を開始した。立地 前橋台地の東端、前橋市街から南へ約3kmに位置し、西方1kmには利根川が流れれる。地形はほぼ平坦で、現在も水田が広がっている。

調査の概要 平安時代末期（天仁元年・1108年）の浅間山噴火に伴うAs-B輕石

で埋没した水田跡19枚を検出した。遺構面は現耕作土下約40～50cmにあり、水田と畦畔の遺存状況は良好であった。検出された畦畔は20本で、畦畔の構造は下幅50～100cm、高さ2～4cm、断面形は若干圧縮され、偏平な形状に変形している。水口は3箇所検出され、各水田への給水方法は高差を利用した「かけ流し」の方法と考えられる。調査区南東部には畦畔を利用した水路と思われる遺構も検出された。条理的割合については坪境畦畔が検出されなかつたので明言できないが、各畦畔の走向、方形の水田区画、本遺跡より南東で坪境畦畔が確認されていることなどから本遺跡の水田跡も条理的割合の影響を受けていると考えられる。

事業名 芳賀東部住宅団地拡張事業（前橋工団地造成組合）

所在地 前橋市島取町地内

調査期間 平成9年7月14日～8月28日

担当者 飯田祐二・佐藤則和

調査面積 623m<sup>2</sup>

調査の経緯 9年4月に前橋工団地造成組合から発掘依頼を受けた。その後、協議・調整を経て、7月に発掘調査の委託契約を締結、発掘調査を開始した。

立地 前橋市街から北へ約5kmに位置する赤城山の南斜面、裾野の先端部にあたり南北に向かって傾斜している。

調査の概要 住居跡2軒、竪立柱建物1軒、溝1条を検出した。住居跡2軒は平安時代の9世紀前半、溝は9世紀中ばと思われる。竪立柱建物については時代を特定することはできなかった。住居跡は現耕作土下約30

～50cmのローム層を掘り込んでつくられており、2軒とも堅緻な張り床、石組みの礎、周溝、煙道を有している。うち、1軒の礎は切石が鳥居状にしっかりと組まれており、もう1軒は1m近い煙道が検出された。出土遺物は土師器や須恵器高台壇など14点である。調査区南西部から北にかけて多くのビットが検出されたが住居跡に結びつくものはなかった。また、南西部からは径3mほどの風倒木痕が検出された。

## 9. 嶺田地田遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 大枠）

## 10. 小坂子新林遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 大枠）

## 11. 上川淵大屋敷遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 前橋）

事業名 ふるさと農道建設（農村整備課）

所在地 前橋市嶺町640番地

調査期間 平成9年9月1日～9月19日

担当者 前原 豊・井野誠一・古屋秀登・宮内 賢

調査面積 560m<sup>2</sup>

調査の経緯 ふるさと農道整備事業に伴う表面調査依頼があり、踏査の結果、散布地であることが判明した。そこで、試掘調査を実施した結果、縄文時代の住居跡が検出されたので、発掘調査に至った。  
立地 赤城山南麓の標高46mの丘陵性台地に立地する。遺跡は南面する台地の西面に集落が展開し、その面から西の低地に向かって嶺城の堀が新たに構築された。  
調査の成果 調査の結果、縄文時代前期の住居跡1軒、嶺城の堀2条と平安時代の溝

1条を検出した。縄文時代住居跡は前期浜式期のものであり、住居跡の平面形は長方形であり、南北4.8m、東西5.2mを測り、ほぼ中央部に石圍炉が存在していた。

嶺城について、山崎氏の研究によれば、南北300m、東西150mの規模が想定されている。今回の調査地は、嶺城の縄張りから北に100mほど離れた地点である。しかし、調査で検出された2条の堀は、断面形態が薬研をなし、うち一つは幅4～5m、深さ3.5mを測る規模を有することと、堀から出土した火鉢、内耳鍋、焙燒等の雜器類が16～17世紀代にまとまるところから、嶺城の堀と考えられる。以上のことから、嶺城の規模が南北400mまで拡大され、より広範囲な城構えであることが判明した。

事業名 ふるさと農道建設（農村整備課）

所在地 前橋市小坂子町278-1番地

調査期間 平成9年10月20日～10月21日

担当者 前原 豊

調査面積 200m<sup>2</sup>

調査の経緯 ふるさと農道建設事業に伴う埋蔵文化財の表面調査依頼があり、踏査の結果、散布地であることが判明した。そこで、試掘調査を実施した結果、溝が検出されたので、発掘調査の実施に至った。

立地 赤城山南麓の標高237mの丘陵性台地に立地する。この周辺一帯には開発行為が入っていないことと表面調査が実施されていないため、遺跡地として認定されたものは少ないが、今後、遺跡数は増加するものと思われる。

調査の成果 調査の結果、溝1条を検出し

た。ほぼ調査区に直交する形で検出された溝は幅1mで深さ10～20cmであった。この溝の底面には、全線にわたって堅面が確認され、水の流れた痕跡も認められないことから、溝としての機能よりも、踏み固められた結果と据えられる。浅い掘り込みから推定すると道として使用された可能性が高い。形成時期は浅間日輪石が覆土に混入しないことから、それ以前と考えられる。また、今回の調査では縄文時代の遺構・遺物は検出されなかったが、表面採集で土器片が確認できた。この地域一帯は淡色黒ボク土の発達が著しいため、縄文時代の遺構が良好に保存されている可能性が高く、隣接地から縄文時代集落の検出が期待できる。

事業名 荘水槽建設工事（水道局）

所在地 前橋市広瀬町二丁目16

調査期間 平成10年1月7日～1月9日

担当者 前原 豊

調査面積 118.4m<sup>2</sup>

調査の経緯 平成9年12月1日に水道局から耐震性貯水槽の建設工事に伴う試掘調査依頼が提出された。12月19日に試掘調査を実施した結果、平安時代の溝と井戸が検出されたため、平成10年1月7日から9日にかけて発掘調査を行った。

立地 本調査は旧利根川が形成した崖線近くの橋台地に存在する。遺跡地の標高は88m前後であり、広瀬川低地帯と4m前後の高低差を測る。この地盤は、広瀬古墳群として知られているが、昭和40年代の住宅団地造成に伴う緊急調査では古墳の調査も

十分になされなかった。近年、周辺の発掘調査で、古墳以外の集落跡や水田跡の様子が解明されつつある。

調査の成果 発掘調査の結果、平安時代の溝1条と井戸2基が検出された。溝は、ほぼ崖線に沿って延び、幅2m、深さ1.8mを測る。溝の覆土上部から、9世紀後半から10世紀代の土器がまとまった形で検出された。溝の断面形態は逆台形をなし、底面には砂粒が大量に堆積していることから、用水路として機能したことと考えられる。

このように、文京町女溝に代表される灌漑用の水路が、旧利根川が形成した広瀬川低地帯から前橋台地らむかって幾条か存在することは確実である。

## 12. 下新田中沖遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 前橋）

事業名 民間開発（宅地造成）

所在地 前橋市下新田町285-2他

調査期間 平成10年2月5日～3月19日

担当者 古屋秀登・井野誠一

調査面積 815.6m<sup>2</sup>

調査の経緯 宅地造成工事に先立ち、平成8年11月20日に確認調査を実施したところ、平安時代の水田跡が検出された。事業者と協議を行った結果、開発予定地の道路部分の発掘調査を実施することが決定した。

立地 下新田中沖遺跡は前橋市街地から南に約3.5kmの下新田町に所在する。本遺跡の東方約500mには利根川が南流し、西方約700mには近世初めに現吉岡町の利根川から導水され、前橋市、高崎市、玉村町などの利根川右岸一帯の灌漑用水として利用されてきた鴨川が南流している。またこの鴨川から分流された殿田用水がすぐ北を東流している。本遺跡が立地する前橋台地は、古代から水田が営まれていた地域であり、周辺には日高遺跡をはじめ、同時期の水田遺跡としては、五反田遺跡、五反田II遺跡、村前遺跡、前箱田遺跡、勝呂遺跡、柳橋遺跡、鴨荷遺跡等がある。

縄文時代～古墳時代 なし

奈良・平安時代 調査の結果1108年の浅間山噴火に伴う軽石層（As-B軽石層）に覆われた平安時代の水田跡14面、南北に走る鞋群7本、東西に走る鞋群7本、水口6カ所、溝2条を検出した。

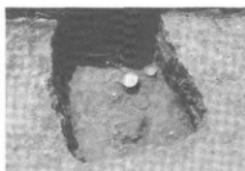
水田の形状は調査区が狭小なため、四隅が鞋群に囲まれた完全な形のものではなく、判別は難しかつた。

鞋群の形状はいずれも押し潰れた台形を呈していた。南北の鞋群はほぼ座標北方向に走行し、東西の鞋群はこれと90°でT字状に交差している。なお調査区西端より検出された鞋群は幅員が広く、その規模から大鞋群と考えられた。さらにこの鞋群の北側の部分では、2本の鞋群が並列して走り、鞋群間の谷間に溝状になっていた。

水口は東及び南方向に配水するよう作られていた。

水田の土壤は粘性・綿まりのある黒褐色土で5cm程度の厚さがあり、水稻栽培に適した土壤であった。

## 13. 鳥取東原遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 大槻）

事業名 公共開発（現道拡幅工事）

所在地 前橋市鳥取町63-1他

調査期間 平成9年7月10日～7月31日

担当者 坂口好季・眞塙明男

調査面積 690m<sup>2</sup>

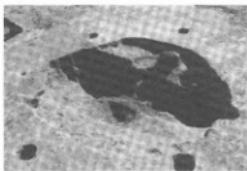
調査の経緯 平成9年4月、土木課より上記工事に伴う埋蔵文化財試掘調査依頼が提出され、試掘調査を実施したところ遺跡地であることを確認した。5月発掘調査の依頼が提出され、土木課と協議・調整を行い、7月に発掘調査の委託契約を締結し、現地での発掘調査を開始するに至った。

立地 鳥取東原遺跡は、前橋市街地から北東へ約4.5kmに位置している。本遺跡の南方2kmには古利根川の断崖が北西から南東にかけてみられる。遺跡地周辺の地形は南面緩傾斜地であり、赤城山麓に源を発する中小の河川が南流し部分的に開析谷を形成している。東西に細長い調査区は台地上と谷地でかなりの比高差を測る。現在、台地上では桑畠を中心とした畠が広がっていて、開析谷にあたる谷地の部分では水田が開けている。また、周辺は芳賀東部団地遺跡、芳賀西部団地遺跡、芳賀北部団地遺跡、巣城跡等の縄文時代～近世の遺跡が密集する遺跡濃密地域である。

調査の概要 現道路拡幅工事の拡幅部分の

みの調査であり、東西にかなり細長い調査区となっている。調査区内でも谷地の部分では水が湧出し、遺構が確認できなかつた。結果、古墳時代中期（5世紀終末～6世紀初頭）に位置づけられる竪穴住居1軒、土坑7基を検出した。そのうちの土坑1基は近世の埋葬施設であった。調査区の関係上、住居跡は1/3ほどの調査となり完璧できなかつた。遺構面から床面まで10cm弱と浅く残存状態の悪い住居跡であり、竪穴なども検出されなかつた。遺物は弱い外縁と鋸歯文を持つ高环と内斜口縁を持つ杯を出土している。土坑は埋葬施設1基を除き遺物がまったく無く、構築時代、用途などは不明である。そこで、今回検出された埋葬施設を紹介する。棺の形は、方形木棺と思われ、副葬品は磁器小皿、土師質凹型土器、古銭18枚が出土した。被葬者は、頭部を南に向けてあぐらをかいているように足を組んだ状態で仰向位に葬られたと思われる。また、小皿や土器は日常雑器として被葬者の身分を示すものであり、古銭は「六道錢」など当時の風習をうかがい知ることができる。

## 14. 鳥取福蔵寺遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 大胡）

事業名 公共開発（鳥取市土地改良事業）

所在地 前橋市鳥取町590他

調査期間 平成9年10月3日～12月26日

担当者 坂口好季・眞塙明男

調査面積 3.500m<sup>2</sup>

調査の経緯 上記事業に先立ち確認調査を行った結果、住居跡等が密集する遺跡包蔵地であることが確認された。平成9年3月、鳥取土地改良事業共同施行により上記事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が提出された。鳥取土地改良事業共同施行に協議・調整を行い、9月に発掘調査の委託契約を締結し、10月現地での発掘調査を開始するに至った。本年度は2年計画の1年目である。

立地 鳥取福蔵寺遺跡は、前橋市街地から北東へ約4.5kmに位置している。本遺跡の南方2kmには旧利根川の断崖が北西から南東にかけてみられる。遺跡地周辺の地形は南面緩傾斜地であり、赤城山麓に源を発する中小の河川が南流し部分的に開析谷と台地を形成している。現在、台地上には桑畑を中心とした畑が広がっていて、開析谷にあたる谷地の部分では水田が営まれている。また、周辺は芳賀東部団地遺跡、芳賀西部団地遺跡、芳賀北部団地遺跡、幽城跡等の縄文時代～近世の遺跡が密集する遺跡濃密

地域である。

縄文時代 古墳時代の住居跡と重複する形で縄文住居跡2軒、埋甕土坑1基、落込み2基を検出した。遺物は縄文時代前期の諸磯b・cを主体とする土器や石器を出土している。

古墳時代 古墳時代後期の住居跡8軒を検出した。そのうち、壠を長嗣覆で補強してある住居跡が3軒あった。遺物は壺、瓶、瓶、鉢などを出土している。

奈良・平安時代 住居跡31軒と精鍛鍛冶工房跡1軒を検出した。この精鍛鍛冶工房跡は原料から取り出した鉄の純度をさらに高める精鍛と鉄製品を作成する鍛造の二工程を一力所する構造であり、遺物も円口完形・破片・鉄錐鉗頭・鍛造チップ・鉄滓純量38%と県内でも屈指の情報量を含むものであった。全体的に鉄製品が多く出土している。

中世 振立柱遺構1棟、竪穴式遺構1軒、井戸跡2基が区画された形で検出した。この区画は精鍛地を削平・整地したと思われ、中世以前の遺構遺物がまったく検出されなかつた。この区画は、出土遺物などから中世末～近世初頭の遺構と思われる。

## 15. 山王若宮遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 大胡）

事業名 老人保健施設建設工事（民間開発）

所在地 前橋市山王町地内

調査期間 平成9年9月1日～9月30日

担当者 飯田祐二・佐藤則和

調査面積 966m<sup>2</sup>

調査の経緯 9年7月に医療法人社団清宮医院の依頼で試掘調査をしたところ、古墳の周堀と思われる遺構を検出した。そのため、本発掘調査にむけて協議・調整を行い、9月に発掘調査の委託契約を締結し、発掘調査を開始した。

立地 前橋市街から南東へ約5km、前橋台地の東端、旧利根川河川敷である広瀬川低地帯の右岸に位置する。広瀬古墳群の南端に位置し、周辺にはかつて古墳が多数点在していたものと思われる。

調査の概要 古墳時代の住居跡14軒、古墳7基を検出した。住居跡は出土遺物の特徴から4世紀後半から5世紀にかけてのものと思われる。いずれの住居跡も古墳構築以前に作られていたと考えられ、古墳構築の際に住居跡上部は接させていた。明確な炉跡は検出されなかつたが炉跡と思われる焼土が確認された。出土遺物は石田1式土器が多数あり、台付壺や壺、高杯、器台など

27点であった。中にはS字口縁内面に横方向のハケ目を持つ比較的古い台付壺も出土した。古墳は後世の耕作等によりいずれの古墳の墳丘部も平夷され、周堀のみが検出された。また、調査区が限られたため、全容を検出できた古墳はなかった。確認できた周堀から想定するといずれの古墳も直径10～15mの小円墳と思われる。墳丘部が平夷されていたため主体部の構造等については不明だが、古墳周辺に破棄されていた石が古墳に使用された石と思われる。その石材は角閃石安山岩である。出土遺物については円筒埴輪12基、形象埴輪1基が出土したがすべて1基の古墳からであった。そのため、ほかの埴輪を伴わない6基の古墳は、この古墳以降の時期に構築されたと思われる。本遺跡の古墳群の構築時期については6世紀後半から7世紀中葉にかけての時期と想定される。

## 16. 五代松峯II遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 大綱）

事業名 民間開発（保育園建設工事）

所在地 前橋市五代町1301-3 他

調査期間 平成9年5月1日～5月30日

担当者 板口好季・眞塩明男

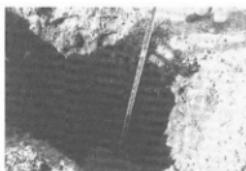
調査面積 300m<sup>2</sup>

調査の経緯 平成8年11月、社会福祉法人ふたば会より上記工事に伴う埋蔵文化財試掘調査依頼が提出され、試掘調査を実施したところ、遺跡地であることを確認した。そこで、9年3月発掘調査の依頼が提出され、社会福祉法人ふたば会と協議、調整を行い、4月に発掘調査の委託契約を締結し、5月現地での発掘調査を開始するに至った。立地 五代松峯II遺跡は、前橋市街地から北東へ約5kmに位置している。本遺跡の南方2.3kmには古利根川の断崖が北西から南東にかけてみられる。遺跡地周辺の地形は南面緩傾斜台地であり、桑畑・牧草地等が広がっていて、開析谷にあたる箇所では水田が開けている。また、周辺は芳賀東部団地遺跡、桧峯遺跡、桧峯古墳、新田塚古墳等の縄文～近世の遺跡が密集する遺跡の宝庫である。

調査の概要 L字状の鉄筋建築部分のみの調査であり、古墳時代後期（7世紀初頭～中葉）に位置づけられる竪穴住居跡2軒、

焼土坑1基、土坑8基を検出した。調査区の関係上、住居跡で完掘できたのは1軒だけであった。そこで、完掘できた住居跡を載せる。規模は南北6.0m、東西6.0m、で面積34m<sup>2</sup>を測り、かなり整った正方形である。遺構面は北東から南西に大きく傾斜している。この住居の付随施設としては出入り口と思われる部分の床面、壁面にそれぞれ2基柱穴があり、梯子をかけた出入り口施設と推測できる。また、住居床面を一旦掘り起こし、西側1/3を貼り床にしており、除湿対策をこうじたものと思われる。さらに、貼り床の下から柱穴2基が検出された。雖は、北壁東寄りに位置し、煙道部が住居から少し出る程度で主体は住居内にいる古墳時代の一般的な傾向を示すものであった。住居内の主柱穴、貼り床下の柱穴、壁外の支柱穴、垂木穴などから上屋の立て替えを含めた計画的な住居の拡張・改善が行われたことが考えられる。貼り床もこの時に造られたものであろう。このように、残存状態が非常に良好な住居跡のわりに、完形に近い出土遺物はなく、住居廃棄の原因が突発的事故によるものでないことを示している。

## 17. 女溝遺跡



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1 前橋）

事業名 土地区画整理（区画整理第二課）

所在地 前橋市文京町二丁目

調査期間 平成10年3月2日～3月4日

担当者 前原 豊

調査面積 試掘調査 144m<sup>2</sup>

調査の経緯 天川地区土地区画整理事業に伴い前橋古河線道路拡幅に係る埋蔵文化財の調査依頼が提出されたため、試掘調査を実施した。

立地 前橋台地を斜めに横切る地割りは、迅速図にも示され、古文献に「女溝」といった名前が見え、通称「前高斜め道路」と呼ばれていたものであるが、区画整理事業によって、その地割りも消滅しつつある。昭和43年版の都市計画図によれば、三河町松竹院のあたりが北端で、南は文京町天川二子山古墳のあたりまでの延長180mまで幅160mの平行な地割りが認められ、その南は末広がりとなって行く様子が観察できる。

調査の方法 道路拡張予定地のうち延長160mに16ヵ所の試掘坑を設定した。

調査の成果 東西140m離れた地点から用水路と考えられる大溝を2条模出したため、西側を1号女溝、東側を2号女溝と呼んだ。1号は、推定上幅10m、深さ3.8mを測る。覆土中位に、1108年浅間火山噴出のAs-

Bテフラ層が堆積することから、開削はそれ以前に遡る。また、2号女溝も幅10m、深さ3m以上を測り、溝を覆った地層から、開削は中世頃と推定される。

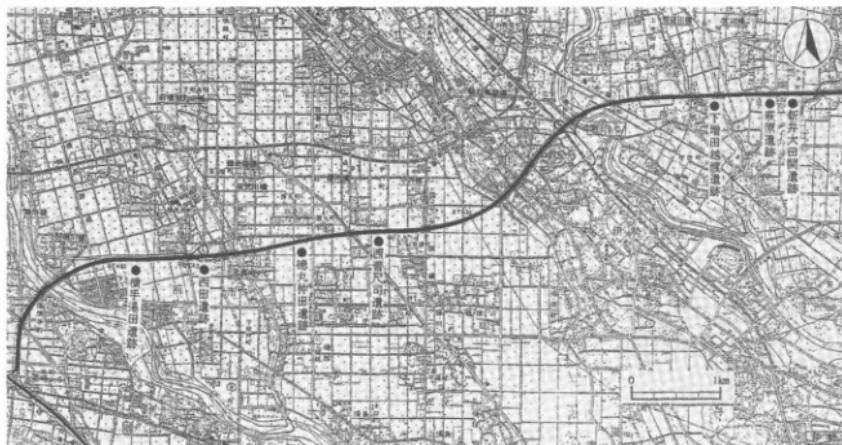
## 18. 北関東自動車道（側道）関連発掘調査

### ○調査に至る経緯

北関東自動車道建設に伴った埋蔵文化財発掘調査は、平成7年度より群馬県埋蔵文化財調査事業団が本線部分の調査を開始し現在も調査継続中である。本市教育委員会では本市北関東自動車道対策室と協議・調整を重ね、今年度より隣接する側道部分の調査を実施することとなりた。

調査については、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が主体となり、調査団とその立ち会い指導のもとに、調査委託者の山武考古学研究所並びにスナガ環境測設株式会社の三者によって行われた。

### ○調査の概要



遺跡位置図 (国土地理院 前橋)

遺跡名	所在地	調査面積m <sup>2</sup>	検出遺構
横手湯田II・III遺跡	龜里町921他	3209	古墳時代～平安時代
西田II遺跡	鶴光路町255-1他	1135	古墳時代～平安時代
徳丸・仲田II遺跡	徳丸町107-2他	2900	古墳時代～中世
西善尺司II遺跡	西善町1151-3他	1704	古墳時代～近世
下増田越渡III遺跡	上増田町1533-3他	3398	古墳時代～中世
萩原II・III遺跡	二之宮町2165-1他	1737	古墳時代～平安時代
新井大田間II遺跡	新井町157他	814	古墳時代～近世

### 横手湯田II・III遺跡



調査期間 平成9年12月1日～平成10年3

月20日

調査面積 3209m<sup>2</sup>

立地 本遺跡は市役所・県庁などの所在する中心地より南へ8km、西方1.5kmには利根川が南流する前橋台地の中央よりやや南北に立地する。

古墳時代 Hr-Fa下水田は残存が悪く、遺構の検出は鞋印1条のみで、遺物も全くなかった。

平安時代 園場整備前の河道、農道、塘渠等により破壊されていない部分からAs-B輕石に埋没した水田耕作面を検出し、幅40～70cmの南北鞋印10条、東西鞋印8条を検出。溝状遺構は20条検出したが、水田と同時期のものは少數であった。

中世 利根川の洪水により埋没した水田面を確認したが、鞋印等の遺構は検出できなかつた。

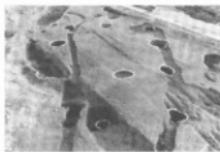
## 西田 II 遺跡



## 徳丸仲田 II 遺跡



## 西善尺司 II 遺跡



## 下増田越渡 III 遺跡



## 萩原 II・III 遺跡



## 新井大田閻 II 遺跡



調査期間 平成9年12月1日～平成10年3

月20日

調査面積 1135m<sup>2</sup>

立地 前橋の中心市街地より南約7km、東方約150mには端気川が流れ、南は前橋南IC予定地と隣接している。  
平安時代 As-B下水田面では水田耕土と思われる黒色土壤を確認したものの遺構の検出はなかった。しかし、黒色土壤の下

調査期間 平成9年12月1日～平成10年3

月20日

調査面積 2900m<sup>2</sup>

立地 前橋の中心市街地より南東約6.5km、両毛線駒形駅の南西約2.5kmにあり、調査区東端の藤川は西善尺司跡との境界となっている。地形は混在する微高地と後背湿地が基調となる。

古墳時代 掘立柱建物1棟、溝状遺構1条。

調査期間 平成9年12月1日～平成10年3

月20日

調査面積 1704m<sup>2</sup>

立地 前橋の中心市街地より南東約6.3km、両毛線駒形駅の南西約2.6kmにあり、前橋台地の東端付近。標高約75mで水田や畑の広がる平坦な場所に位置している。  
古墳時代 微高地の間の狭い谷地を利用したHr-Fa水田や溝、微高地では方形周

調査期間 平成9年12月1日～平成10年3

月20日

調査面積 3398m<sup>2</sup>

立地 前橋市南東部、両毛線駒形駅より南東約2kmの場所にあり、西を荒砥川、東を萩原遺跡のある舌状台地に挟まれた低地に存在する。

古墳時代 荒砥川東縁より方形周溝墓、粘土探坑を検出。調査区のほぼ全域よりA

調査期間 平成9年11月18日～平成10年3

月20日

調査面積 1737m<sup>2</sup>

立地 本市中心市街地より南東へ11kmに位置する。東を神沢川、西に宮川、荒砥川に挟まれた舌状台地の縁辺部にあり、東は新井大田閻II遺跡と隣接する。

古墳時代 4世紀から6世紀の住居跡3軒

調査期間 平成9年12月1日～平成10年3

月20日

調査面積 914m<sup>2</sup>

立地 本市中心市街地より南東方向に11km程で、東に神沢川、西に宮川、荒砥川に挟まれた自然堤防状の微高地縁辺部に位置している。

古墳時代 調査区東により、幅2m、深さ23cmの溝1条を検出。二重の堤で時期を変

層より住居跡10軒、土坑53基、溝状遺構19条、小ピット72基が全面にわたり検出され、土器類、須恵器、灰釉陶器などの出土遺物により時代は9c後半～10c前半のものと考えられる。土塙や鉄製品の出土もあった。また、端気川より取水したと見られる幅5.2m、深さ85cmで北東から南西へ流れる溝1条も検出した。

奈良時代 土坑2基、溝状遺構1条が確認され、遺構からは須恵器碗や須恵器長頸壺の破片が出土している。

平安時代 藤川西縁で住居跡2軒・土坑4基・溝1条を検出。籬周辺より須恵器や灰釉陶器が出土。一方、水田耕土は検出されたものの、明確な鞋印や水田耕作に伴う遺構は検出されなかった。

溝墓の周溝脛部を検出した。

平安時代 As-B輕石下水田跡では南北鞋印10本を検出。藤川東岸付近では籬を有する住居跡2軒、断面が築堤を呈する溝を確認し須恵器高杯などが出土している。

江戸時代 土坑墓6基を検出。方形木棺3基、円形木棺2基、直葬1基で遺物は主に古鏡や陶磁器片であった。

s-C混土水田跡を広範囲で検出した。

平安時代 弘仁九年（818年）の地震に伴うとみられる洪水層によって埋没した水田跡を宮川以西で検出。荒砥川と宮川の間ではその面を上面より掘り込んだり9世紀後半の集落跡（住居跡12件、掘立柱建物2棟、土坑8基）を検出し、さらに上面からはAs-B下水田跡を全面で確認している。

を検出。遺物は4世紀と考えられる土器片などが出土した。

平安時代 調査区西部からは9世紀から10世紀と思われる住居跡4軒を検出。出土遺物は土器類や須恵器の壺、杯、羽釜などが出土した。また、東部からは鞋印を伴ったAs-B輕石に埋没した水田跡が検出された。

えて使用された可能性があり、流れ込みと思われる土器片7点を検出。

平安時代 As-B輕石堆積層下に水田耕土面を検出。鞋印の検出はなかったものの、人や馬の踏跡と思われる溝を検出。遺物は須恵器、土器片で15点のみであった。

近世 As-B輕石堆積層上面より掘り込まれた溝1条を検出。

## 19. 遺跡台帳整備事業



(下川灘小学校における資料展示)

事業名 遺跡台帳整備事業  
事業期間 平成9年4月1日～平成10年3月31日

担当者 井野誠一・古屋秀登

事業の概要 遺跡台帳整備事業では、年間を通じて市内での発掘調査や各種確認調査の資料を元にして、遺跡の資料を台帳化しており、その資料を元に各種開発に対応をしている。

平成9年度は、市内遺跡の一算表（作成済）をもとにして、古墳台帳の作成を継続した。作成は10年度以降も続く予定である。

遺物の整理では、大室古墳群出土の埴輪・石器で未整理になっていたものの、復元および実測をおこなった。

資料整備としては、市指定史跡の文京町所在の不二山古墳の測量を行った。

資料の展示では、市役所一階のガラスケートンに「天神山出土品復元品」・「消防団資料」等の展示を行った。また、学校への貸し出し・展示では荒牧小学校及び下川灘小学校での資料室整備及び展示の支援を行った。これは、10年度以降も行う予定で準備を行っている。

普及資料作成では、平成8年度発掘調査の成果をパンフレットにまとめ配布を行った。8年度は内堀遺跡の小二子古墳を中心に作成を行った。

## 20. 調査会調査



(川白田遺跡出土遺物)

前橋市内の開発に先立つ埋蔵文化財発掘調査地で、県教育委員会を中心として調査会を設立し、市教育委員会も役員として参加し、発掘調査を行っているもの。市の国・県事業にかかわるもので、発掘調査は民間調査機間に委託をして実施している。

事務手続きの一部と、遺物の管理は市教育委員会で担当している。

平成9年度は、東大室町の多田山住宅団地遺跡の調査及び小坂子町の川白田遺跡の整理作業が行われた。

## 5. 大室公園史跡整備事業

### (1) 大室公園史跡整備委員会

今年度も、大室公園史跡整備事業の推進に当たり、その万全を期するために学識経験者及び関係職員で組織された史跡整備委員会を中心に、整備計画及び整備内容の検討を十分に行なった上で事業を実施してまいりました。また、詳しい内容については別記しましたが、委員会開催と共に、その下でより専門的、実務的な事業を担当する3つの専門部会（古墳整備部会、民家変遷部会、資料館部会）についても、例年と同様に、それぞれ3~4回開催し、節目節目で具体的な事業内容の検討に当たってまいりました。

#### ○平成9年度大室公園史跡整備委員会の経緯

平9. 5. 12…文化庁への事業報告及び指導

7. 7… //

9. 8… //

平10. 1. 27… //

2. 27…平成9年度大室公園史跡整備委員会開催  
(通算11回目)

3. 26…文化庁への事業報告及び指導



大室公園史跡整備委員会の様子

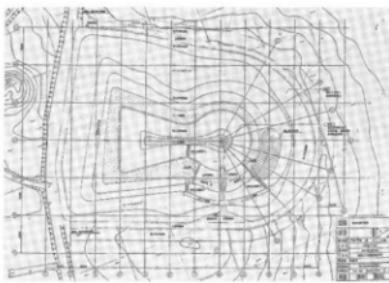
### (2) 古墳整備部会

国指定史跡大室4古墳に関しては、これまで、整備にしなえて古墳の規模、形状、構造等を正確に把握するための発掘調査の実施、及び、その調査結果を基にした、4古墳それぞれの整備基本設計の作成がすでに完了しています。今年度は、それらの成果を受けて、4古墳整備の皮切りとして後二子古墳の整備に着手しました。後二子古墳の整備期間は平成9年度から11年度までを計画しており、今年度は、3カ年にわたる整備工事の実施設計、及び、墳丘上段部分を中心とした保存修理を実施しました。

また、加えて、実施設計に必要なデータを収集する目的で、後二子古墳、並びに平成10年度より12年度までの3カ年で整備を予定している中二子古墳について、古墳

の縦横断測量及びボーリングによる地質調査を実施しました。

#### ○後二子古墳整備実施設計（一部抜粋）



後二子古墳整備実施設計

#### ○後二子古墳整備工事（3年計画の1年次）

- ・古墳兆域の樹木間伐（特に周堀、上段墳丘）
- ・墳丘上段部の表土すき取り（上段墳丘）
- ・遺構保護盛土（上段墳丘）
- ・吹付植伐（上段墳丘）
- ・パーク舗装（墳頂部）



後二子古墳整備工事

#### ○平成9年度古墳整備部会の経緯

平9. 9. 8…後二子古墳整備に向けての整備事例調査  
実施（川口市木曾呂の富士塚）

9. 10…平成9年度第1回部会開催

平10. 1. 6…大室4古墳出土遺物に関する資料調査  
(東京国立博物館)

1. 26…平成9年度第2回部会開催

2. 20…後二子古墳整備実施設計に関する指導・  
助言（大室公園史跡整備委員会副委員長、  
国立歴史民俗博物館副館長白石太一郎氏）

3. 11…平成9年度第3回部会開催

### (3) 民家変遷部会

平成7年度より3年計画で進められてきた赤城型民家園整備の最終年度の工事を実施しました。今年度は、土蔵工事の後半、離れ、物置、穀倉、表門などの付帯施設、及び外構、植栽工事を行いました。

また、昨年度より検討を進めてきた民家園の維持・管理については、地元の西大室町及び東大室町の老人会を母体とした赤城型民家保存会を組織し、文化財保護課指導の下、完成した施設から一般公開を開始しました。

#### ○民家園整備工事経過

平9. 7. 2…土蔵の継続工事開始

10. 23…離れ、物置、穀倉、外便所、戸戸、表門、外構工事着工

12. 8…建設用部材検査（中之条町）

平10. 1. 14…植栽工事

3. 25…工事終了

※尚、天候不順による乾燥不足のため一部外壁仕上げ工事を平成10年度へ繰越しました。また、工事の進捗と平行して、教育委員会総務課、文化財保護課、工事監理業者、及び工事業者の4者による工事打合わせを平成9年7月9日より工事終了まで都合13回設定し検討を重ねてきました。

#### ○民家園管理

大室公園赤城型民家保存会に管理業務を委託し、平成9年7月12日より、既に移築復原が終了した前橋市指定重要文化財になっている旧間根家住宅の一般公開を開始しました。

#### 〔民家園公開日時〕

4月～11月 9:00～16:00 月曜休園

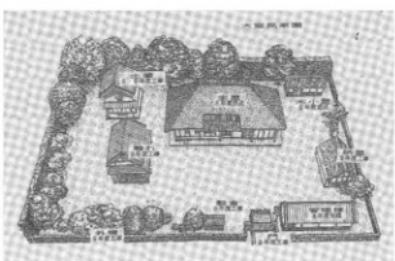
12月～3月 9:00～16:00 土、日、祝日開園

#### ○平成9年度民家変遷部会の経緯

平9. 9. 24…平成9年度第1回部会開催

12. 18… “ 第2回部会開催

平10. 1. 29… “ 第3回部会開催



民家園全体図

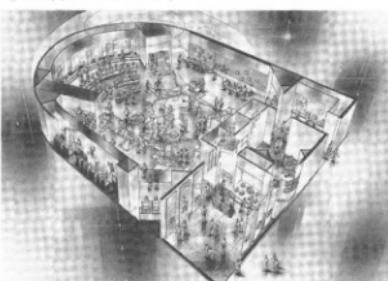
### (4) 資料館部会

大室古墳資料館（仮称）建設に向けて、これまでに策定が終了している基本構想を基に、今年度は資料館の展示に関する基本設計の作成を実施しました。

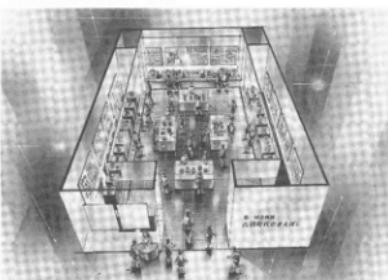
さらに、大室4古墳発掘調査、及び大室公園整備地内の施設建設に先行する発掘調査（内堀遺跡群発掘調査）等によって得られた膨大な出土遺物資料の未整理分について、将来、資料館への収蔵を予定し、今年度から継続的な整理作業を開始しました。

#### ○資料館展示基本設計

【常設展示室（500m<sup>2</sup>）】



【企画展示室（150m<sup>2</sup>）】



#### ○平成9年度資料館部会の経過

平9. 7. 30…平成9年度第1回部会開催（展示基本設計委託業者選定審査会設置）

9. 11…平成9年度第2回部会開催（展示基本設計委託業者選定会議）

12. 3…平成9年度第3回部会開催（群馬町「かみつけの里博物館」視察調査）

平10. 1. 30…平成9年度第4回部会開催

## あとがき

来るべき2000年を目前にして、悠遠の歳月を感じずにはいられません。人々の心がせわしくなっている現在、いにしえの時に触れてみることが大切なではないでしょうか。そして今こそ、21世紀の前橋市民の文化向上を図る施策を実行していかなければならぬと考えています。

文化財保護課の仕事は、息の長い仕事で長期的な見通しが要求されます。つい目の前にばかりに気を取られることが多いですが、「国家100年の計」ならぬ「市政100年の計」のような巨視的な立場から改めて文化財保護行政をみることが必要です。しかし、一方では時代に即応した微視的な見方も忘れてはならないのです。文化財保護行政に限りませんが、常に複眼的思考の中で市民の要望に応えられる柔軟性を持ち続け、市民文化の醸成に寄与していきたいと考えています。

平成10年9月

文化財保護課長  
川合 功

### 平成9年度

前橋市文化財調査委員  
近藤 義雄  
丸山 知良  
松島 栄治  
阿久津宗二  
梅沢 重昭

### 平成9年度

文化財保護課職員  
文化財保護課長 川合 功  
文化財保護係長 宮下 寛  
埋蔵文化財係長 駒倉 秀一  
主 査 江原 清  
" 丸山 正家  
" 唐澤 保之  
" 井野 誠一  
" 横山 浩之  
主 任 前原 豊  
" 真塙 欣一  
" 梅山 雅夫  
" 戸所 憲策  
" 坂口 好孝  
" 古屋 秀登  
" 林 信也  
" 平野 岳志  
" 飯田 祐二  
主 事 吉田 聖二  
" 佐藤 則和  
" 宮内 納  
" 真塙 明男  
嘱 託 安立 聰  
専 門 員 阿久津宗二  
発掘指導 井上 唯雄

---

### 平成9年度文化財調査報告書第28集

---

平成10年9月25日印刷

平成10年9月30日発行

発 行 前橋市教育委員会文化財保護課

前橋市上泉町664-4

印 刷 上海印刷工業株式会社

---

